

# 第三期帯広市子どもの読書活動推進計画

平成27年度～平成31年度



帯広市教育委員会

表紙絵 ～ 「こどもの本の森」ロールスクリーン採用作品 ～

左より 森田桃代さん 林陽葵さん 池原亜飛くん 岡田脩聖くん の作品



このロールスクリーンは、2014年3月2日国際ソロプチミスト帯広みどり様より寄贈されました。  
「こどもの本の森」をテーマに絵を募集し53名の応募の中より上記4作品が選ばれ、図書館児童室  
「こどもの本の森」に飾られています。

<b>第1章 基本的な考え方</b>	1
1 計画策定の趣旨	1
2 基本理念	1
3 計画の性格	1
4 計画の期間	1
5 計画の対象	2
6 基本方向	2
7 第二期計画における成果と課題	3
<b>第2章 子どもの読書活動の推進のための方策</b>	6
1 子どもの読書活動の機会の充実	7
1-1 家庭・地域における子どもの読書活動の機会の提供	7
(1) 家庭における取組の促進	7
(2) 図書館における取組の推進	10
(3) 公共施設における取組の推進	12
(4) 民間団体の活動に対する支援	12
1-2 学校等における子どもの読書活動の機会の提供	13
(1) 読書指導の充実	13
(2) 家庭・地域との連携による取組の推進	14
(3) 障害のある子どもに対する取組の推進	15
(4) 保育所・幼稚園等における取組の推進	15
2 子どもの読書活動を推進するための読書環境の整備	16
2-1 図書館等の整備・充実	16
(1) 図書館の図書館資料等の整備・充実	16
(2) 障害のある子どもの読書環境の整備・充実	18
(3) 公共施設の図書資料の整備・充実	19
2-2 学校図書館の整備・充実	20
(1) 学校図書館の図書館資料等の整備・充実	20
(2) 学校図書館の機能の充実	21

---

2-3	子どもの読書活動の推進に係る体制の整備	22
(1)	子どもの読書活動推進会議の運営	22
(2)	関係機関・民間団体等の連携・協力の促進	22
(3)	教職員等の研修の充実	23
(4)	図書館司書の研修の充実	23
3	子どもの読書活動に関する普及・啓発	24
3-1	啓発・広報事業の推進	24
(1)	子どもの読書活動に関する理解の促進	24
(2)	優れた取組の奨励	25
(3)	優良図書 の普及	25
(4)	各種情報の収集・提供	25
<b>第3章</b>	<b>計画の推進</b>	<b>26</b>
1	子どもの読書活動推進計画の点検・評価	26
(1)	子どもの読書活動推進計画の点検・評価の実施	26
(2)	目標値の設定	26
<b>資料編</b>		<b>27</b>
資料-1	用語解説	29
資料-2	平成26年度帯広市小中学校読書アンケート調査結果報告書	
I	調査の概要	35
II	調査結果	36

---

# 第1章 基本的な考え方

## 1 計画策定の趣旨

「子どもの読書活動の推進に関する法律」（平成13年法律第154号）に基づき、国においては、平成25年度から5年間にわたる施策の基本方針として、平成25年5月に第三次計画となる「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」を、北海道においては、平成25年3月に「北海道子どもの読書活動推進計画」をそれぞれ策定しました。

帯広市においては、平成17年3月に「帯広市子どもの読書活動推進計画」（以下「第一期計画」）を、平成22年7月には「第二期帯広市子どもの読書活動推進計画」（以下「第二期計画」）を策定し、子どもの読書活動を推進してきました。

しかし、全国的には依然として、小学生、中学生、高校生と学校段階がすすむにつれて、子どもの読書離れが顕著になる傾向が見受けられ、本市においても同様の状況にあります。

こうした中、「第二期計画」が平成26年度をもって終了することから、これまでの5年間の取組の成果と課題を踏まえ、施策を総合的・計画的に推進するため「第三期帯広市子どもの読書活動推進計画」を策定するものです。

## 2 基本理念

子どもは、自主的な読書活動を通して、読解力や想像力、思考力、表現力などを身につけるとともに、多くの知識を得たり、多様な文化を理解したりすることができます。

また、書籍や新聞などの資料を読み深めることを通して、自ら学ぶ楽しさや知る喜びを体得し、さらなる知的探究心や真理を求める態度が培われます。

こうした観点から、自主的な読書活動を推進することにより、子どもの豊かな心を育成します。

## 3 計画の性格

この計画は、家庭、地域、学校などの関係機関や民間団体が連携・協力し、帯広市の子どもの読書活動の推進に取り組むための方向性を示すものです。

また、この計画は、「帯広市教育基本計画」の個別計画として位置づけるとともに、「子どもの読書活動の推進に関する法律」に基づく計画としての性格を持つものです。

## 4 計画の期間

計画の期間は、平成27年度から平成31年度までの5年間とします。

## 5 計画の対象

この計画の対象は、0歳からおおむね18歳とします。

## 6 基本方向

この計画の基本理念の実現をめざし、家庭、地域、学校などが連携し、3つの観点から地域全体で子どもの自主的な読書活動を推進します。

### (1) 子どもの読書活動の機会の充実

子どもの自主的な読書活動を推進するためには、発達段階に応じて、子ども自身が読書の楽しさを知るきっかけを作り、積極的に読書をしようとする意欲や態度を養い、生涯にわたる読書習慣を身につけることができるようつとめることが必要です。

このような観点から、家庭はもとより地域全体で子どもの読書活動の機会の提供・充実をはかります。

### (2) 子どもの読書活動を推進するための読書環境の整備

子どもが読みたいとき、調べたいときに必要な本を手にすることができるよう、身近なところで読書ができる環境を整備していくことが重要です。

また、子ども自身や親が本を選ぶ際に相談ができる環境や、ガイドとなるパンフレット・ブックリストなどを整えていくことが大切です。

このような観点から、帯広市図書館（以下「図書館」）や学校図書館の図書館資料の充実とともに、関係機関、民間団体などが連携・協力し、子どもの自主的な読書活動の推進に向けた機会や場所を提供するなど、望ましい読書環境の整備に取り組みます。

### (3) 子どもの読書活動に関する普及・啓発

子どもが自主的な読書習慣を身につけていくためには、身近な大人が読書活動に理解と関心を持つことが重要です。このため、家庭や学校など地域全体で子どもの読書活動を推進する機運を高める必要があります。

このような観点から、子どもの自主的な読書活動を推進する社会的機運の醸成をはかるため、子どもの読書活動の意義や重要性について広く普及・啓発をはかります。

## 7 第二期計画における成果と課題

### (1) 成果

- 低年齢から読書習慣を身につけるため、発達段階に応じたブックリスト<sup>※1</sup>を作成し、乳幼児健診時やささまざまな機会を通して、配布・周知を行いました。  
また、児童書の充実や子育て応援バッグ<sup>※2</sup>の貸出などにも取り組み、乳幼児向けのおはなし会の参加者数や児童図書の貸出冊数が増えています。
- 小・中学校全校において朝の読書などの一斉読書活動を継続したことにより、児童生徒の不読率<sup>※3</sup>は0%を保っています。
- 学校図書館の図書館資料数は、計画的な整備により、平成 25 年度には国が定めた学校図書館図書標準冊数<sup>※4</sup>の 80.9%を達成しました。  
また、司書教諭<sup>※5</sup>を中心に、学校図書館活性化支援事業運営委員会（以下「学校図書館運営委員会」）<sup>※6</sup>や図書館などとの連携・協力により、魅力ある情報発信や空間づくりを行い、学校図書館における小・中学生の年間1人当たりの図書貸出冊数が大幅に伸び、平成 26 年度の目標値を大きく上回りました。
- 帯広市学校公共図書館研究会<sup>※7</sup>との連携により読書感想文コンクールを継続して実施し、平成 26 年度で第 54 回を迎えました。  
また、平成 22 年度には市民協働によりジュニア文芸を開始し、毎年、募集・発行を行い、青少年の創作活動・発表の機会の充実をはかりました。
- 図書館や学校図書館の運営をはじめ、おはなし会などの実施に当たり、多くのボランティアが大きな原動力となり、幅広く厚みのあるさまざまな活動が行われ、子どもの読書活動が大きく推進されました。

### (2) 課題

- 第二期計画の目標値である「図書館におけるおはなし会、朗読会などの参加者数」や「幼児・児童1人当たりの児童図書の貸出冊数」、「中学生の読書が好きな割合」が目標値に達しておらず、学校での一斉読書の家庭への波及や、地域全体での読書の習慣付けに向けた一層の取組が必要です。

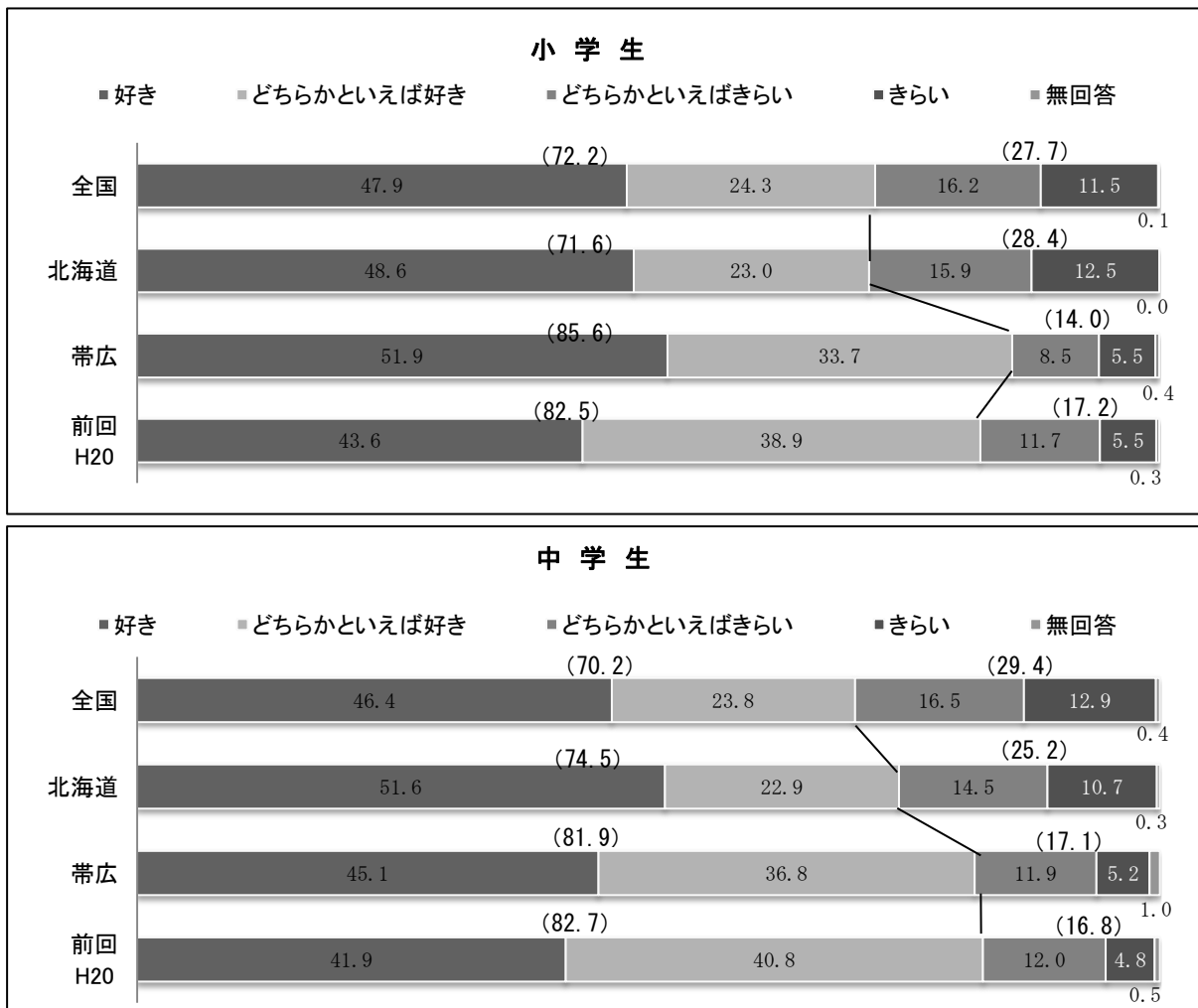
## 第1章 基本的な考え方

- 平成26年度に実施した「帯広市小中学校読書アンケート調査」（以下「アンケート調査」）では、小学生では「本を読むのが好き」と「どちらかといえば好き」を合わせた読書が好きな児童の割合が85.6%、「本を読むのがきらい」と「どちらかというときらい」を合わせた読書がきらいな児童の割合が14.0%で、前回より読書が好きな児童の割合が3.1ポイント増えました。

中学生では、読書が好きと答えた生徒の割合が81.9%、読書がきらいと答えた生徒の割合が17.1%で、前回より読書がきらいな生徒の割合が0.3ポイント増えました。

全国や北海道の調査結果と比較すると、帯広市は小・中学生ともに読書が好きと答えた割合は高くなっていますが、小学生より中学生が3.7ポイント低く、小学生のときの読書習慣を中学校においても継続していくための取組が必要です。

＜表1-1＞読書が好きな児童生徒の割合



出典：全国・北海道の数値は「平成25年度全国学力・学習状況調査」(文部科学省)

帯広の数値は、「平成26年度帯広市小中学校読書アンケート調査」(帯広市)

前回の数値は、「平成20年度帯広市小中学校読書アンケート調査」(帯広市)



- 学校図書館の図書館資料数については、国が定めた学校図書館図書標準冊数の100%を達成している学校が40校中4校のみとなっており、さらに読書機会の提供をはかるため図書館資料及び蔵書スペースの充実が必要となっています。
- 移動図書館バスの運行については、知らない市民が多く、効果的な周知が必要です。  
また、コミュニティセンター（以下「コミセン」）図書室は、月1回、本の入替えを行っていますが、古い本が多いことから計画的な図書の整備につとめ、児童生徒が徒歩で行くことができる身近な図書室としての役割を高めていくことが求められています。
- 活発なボランティア活動が行われていますが、一部では高齢化や会員不足もみられ、広く募集を行うなど、人材の確保が求められています。

### (3) 第二期計画の指標達成状況

<表1-2> 第二期計画の取組目標

指標の概要	基準年度の状況	現時点での状況	取組目標 (平成26年度)
図書館におけるおはなし会、朗読会などの参加者数	2,399人 (平成20年度)	3,256人 (平成25年度)	3,600人
帯広市読書調査において「本を読むのが好きですか」の設問に対して、「好き」「どちらかといえば好き」と回答した児童生徒の割合	小学生 82.5% 中学生 82.7% (平成20年度)	85.6% 81.9% (平成26年度)	増加
図書館における幼児・児童1人当たりの児童図書の貸出冊数	17.4冊 (平成20年度)	18.1冊 (平成25年度)	20.0冊
小学校の学校図書館の児童1人当たりの貸出冊数	9.1冊 (平成19年度)	14.8冊 (平成25年度)	10.7冊
中学校の学校図書館の生徒1人当たりの貸出冊数	1.6冊 (平成19年度)	3.7冊 (平成25年度)	2.1冊

## 第2章 子どもの読書活動の推進のための方策

子どもの読書活動推進の基本方向である「子どもの読書活動の機会の充実」、「子どもの読書活動を推進するための読書環境の整備」及び「子どもの読書活動に関する普及・啓発」の実現に向けて、次の推進方策及び具体的な取組をすすめていきます。

### <取組の体系>

基本方向	推進方策	具体的な取組
1 子どもの読書活動の機会の充実	1-1 家庭・地域における子どもの読書活動の機会の提供 ⇒ 7ページ	(1) 家庭における取組の促進 (2) 図書館における取組の推進 (3) 公共施設における取組の推進 (4) 民間団体の活動に対する支援
	1-2 学校等における子どもの読書活動の機会の提供 ⇒ 13ページ	(1) 読書指導の充実 (2) 家庭・地域との連携による取組の推進 (3) 障害のある子どもに対する取組の推進 (4) 保育所・幼稚園等における取組の推進
2 子どもの読書活動を推進するための読書環境の整備	2-1 図書館等の整備・充実 ⇒ 16ページ	(1) 図書館の図書館資料等の整備・充実 (2) 障害のある子どもの読書環境の整備・充実 (3) 公共施設の図書資料の整備・充実
	2-2 学校図書館の整備・充実 ⇒ 20ページ	(1) 学校図書館の図書館資料等の整備・充実 (2) 学校図書館の機能の充実
	2-3 子どもの読書活動の推進に係る体制の整備 ⇒ 22ページ	(1) 子どもの読書活動推進会議の運営 (2) 関係機関・民間団体等の連携・協力の促進 (3) 教職員等の研修の充実 (4) 図書館司書の研修の充実
3 子どもの読書活動に関する普及・啓発	3-1 啓発・広報事業の推進 ⇒ 24ページ	(1) 子どもの読書活動に関する理解の促進 (2) 優れた取組の奨励 (3) 優良図書の普及 (4) 各種情報の収集・提供

—基本方向1— 子どもの読書活動の機会の充実

推進方策  
1-1

家庭・地域における子どもの読書活動の機会の提供

家庭をはじめ図書館や公共施設などにおいて、関係機関・民間団体・行政などが連携・協力して、家庭における読書の大切さの啓発につとめるとともに、子どもの読書活動の機会の提供に取り組みます。

推進の方向性

子どもの読書習慣は日常の生活を通して身につけるものであり、読書が生活の中に位置づけられ継続して行われるよう、保護者が子どもの読書活動の機会の充実や読書活動の習慣化に配慮し、率先して積極的な役割を果たしていくことが重要です。

そのため、保護者に対して、家庭における読み聞かせや家族と一緒に本を読んだり、図書館に出向いたりするなど、子どもが読書に親しむきっかけ作りのほか、家族で定期的に読書の時間を設けたり、読書を通して家族で話し合ったりするなど、読書に対する興味や関心を引き出すように子どもに働きかけることの重要性について、理解を深めていく必要があります。

図書館をはじめとした社会教育施設などにおいては、子どもの読書活動に関する理解と関心を広めるとともに、子どもが読書を通して新たな発見や出会い、楽しさを味わうことができるよう工夫を重ね、さまざまな機会を提供することが求められています。

こうした活動をすすめていく上で、民間団体の持つ人材やノウハウは欠かせないことから、民間団体との連携・協力を深めるとともに、それらの活動を支援していくことが大切です。

具体的な取組

(1) 家庭における取組の促進

① 絵本との出会い事業の実施

絵本を通して親子がふれあう機会を提供するため、ボランティアの会「ゆりかご」の協力により絵本との出会い事業<sup>※8</sup>として、5か月児健診を受診する親子に絵本とブックリストを配布します。また、図書館で行っているおはなし会などについての情報提供も行います。



5か月児健診会場での「絵本との出会い事業」

## ② 乳幼児健診での読書活動支援

1歳6か月児健診と3歳児健診時に、図書館の情報や本を選ぶ際の参考となるようブックリストを受診者の親子に配布します。

また、1歳6か月児健診会場に、読み聞かせや本の選び方についてアドバイスを行う図書コーナーを設置するとともに、図書館の利用方法などについて情報提供を行い、家庭における読書活動を支援します。

## ③ 子育てメール通信の実施

子育てのアドバイスや情報を希望者に配信する子育てメール通信<sup>※9</sup>を活用し、1歳児、2歳児向けに絵本を使った子育てのすすめや図書館司書のおすすめ絵本の紹介などについて情報を配信します。

## ④ 地域子育て支援センターにおける絵本の活用

地域子育て支援センター<sup>※10</sup>に遊びに来る親子を対象に、絵本とふれあう機会の提供として読み聞かせなどの体験活動を日常的に行います。また、図書館の利用方法やおはなし会のパンフレット類を常備したポケット付き壁掛掲示板を各施設に設置し、情報提供を行います。

## ⑤ ブックリストの配布

発達段階に応じたブックリストを作成し、0歳から就学前までの乳幼児には健診時に保護者に配布するほか、図書館、保育所、幼稚園などにも配置し、絵本についての情報提供を行います。

小学生に読んでもらいたいブックリストは、学校を通して毎年新1年生に配布し、本に親しみ読書を楽しむきっかけ作りをします。また、中・高校生向けのおすすめ本のリストを掲載した「TEEN'S」を年間4回発行し、中学校に配布します。

その他、食育を推進するブックリストを作成し、乳幼児健診時の保護者や小学校に配布します。



ポケット付き壁掛掲示板

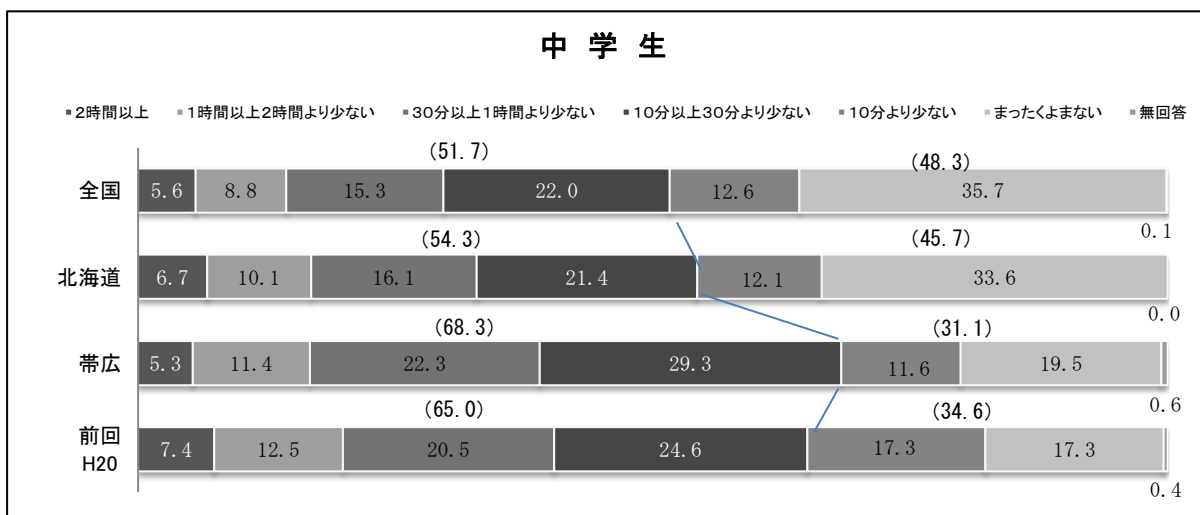
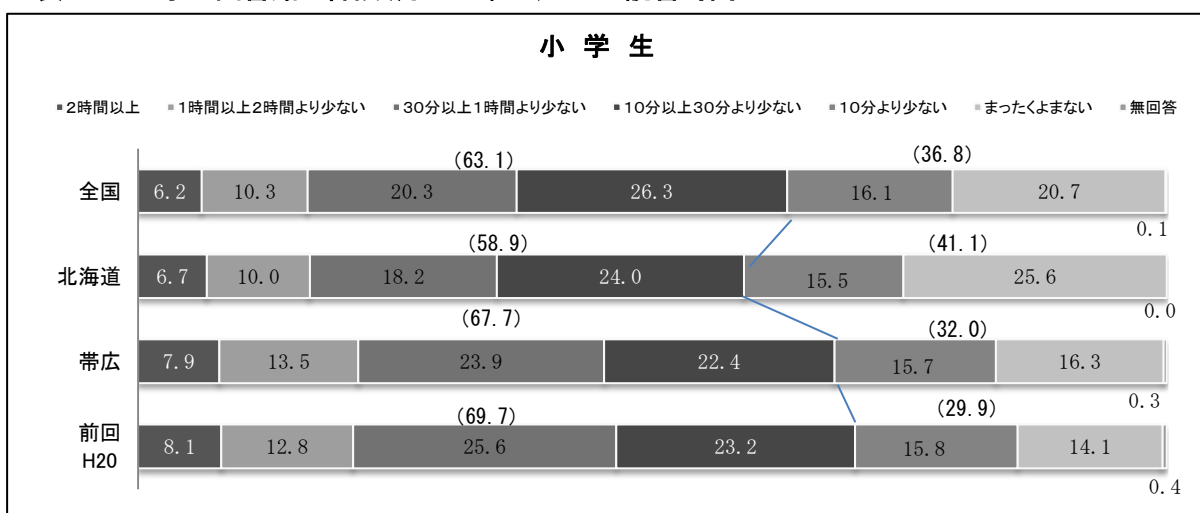
### ⑥ 家読（うちどく）の取組の促進

平成26年度に行ったアンケート調査では、「家や図書館で普段（月～金）1日にどれくらいの時間本を読みますか」との設問に対し、「10分以上読んでいる」児童生徒の割合は、小学生が67.7%、中学生が68.3%となっています。

本市の調査結果は、国や北海道と比較すると、数値は高くなっていますが、「10分より少ない」、「まったく読まない」と答えた児童生徒の合計は3割を超えています。

北海道教育委員会がすすめている北海道「朝読・家読運動」※11と連動し、学校やPTA、地域が連携して、家庭などにおける日常的な読書習慣の普及と定着に向け、家読の取組を促進します。

＜表2-1＞家や図書館で普段（月～金曜日）1日の読書時間 (%)



出典：全国・北海道の数値は、「平成25年度全国学力・学習状況調査」(文部科学省)

帯広の数値は、「平成26年度帯広市小中学校読書アンケート調査」(帯広市)

前回の数値は、「平成20年度帯広市小中学校読書アンケート調査」(帯広市)

## (2) 図書館における取組の推進

### ① 読書相談への対応等

発達段階に応じたブックリストの配布により、図書館にブックリストを持参し本の選定に来る子どもや親子が増えているほか、読書団体から読み聞かせの仕方などについての相談が寄せられています。

このため、館内に各種ブックリストやパスファインダー※<sup>12</sup>を配置するとともに、特集コーナーの設置や読者からのおすすめ本を紹介する参加型展示を活用し、読書相談への具体的なアドバイスを行い、子どもたちが自発的に読書活動や学習に取り組めるよう支援します。

### ② 子育て応援バッグの取組の推進

絵本を選ぶ時間がない保護者や選定に迷っている保護者向けに、おすすめ絵本の10冊セットや、着替えや歯みがきなど生活に関する絵本5冊をセットにした子育て応援バッグを貸出します。



子育て応援バッグ「フチトマト」

### ③ おはなし会・講座等各種事業の実施

こども映画会やこどもの読書週間※<sup>13</sup>でのイベント、読書団体やボランティア団体の協力による朗読会や定期的なおはなし会※<sup>14</sup>、帯広畜産大学附属図書館と連携した情報検索ガイダンス講座、帯広図書館友の会※<sup>15</sup>との協力による図書館まつり、社会教育施設と連携した子ども向け講演会の実施など、さまざまな事業を通して読書に親しむ機会の充実をはかります。また、妊婦とその家族を対象に、胎児の成長や発達状況、胎児への語りかけの効果などについての講座を開催し、胎児期からの読み聞かせの重要性や必要性についての理解促進につとめます。



図書館まつり



畜大附属図書館との連携事業  
「むしむしサイエンス授業」

#### ④ 語り手育成講習会などによるボランティアの育成

多くのボランティアにより、図書館やコミセン、学校などにおいて読み聞かせなどの読書活動が行われています。

読み聞かせの初心者を対象とした入門編、経験者を対象としたステップアップ編、学校で読み聞かせをしている人を対象にした小学校編など、受講者のレベルやテーマに合わせた語り手育成講習会を実施し、ボランティアの育成及び技術の向上をはかるとともに、新たな人材の確保につとめます。

また、受講者が学んだことを生かすことができる場の提供につとめます。

#### ⑤ 児童生徒の創作活動・発表の場の提供

本に親しみ、読書や創作の楽しさを知ってもらうため、帯広市学校公共図書館研究会とともに昭和 36 年度から行っている市内の小・中学生を対象とした帯広市児童生徒読書感想文コンクールを実施します。

また、十勝管内の小学生から高校生などの 18 歳までを対象に文芸作品の募集を行い、冊子として発行するジュニア文芸を継続し、児童生徒の創作活動・発表の場を提供します。

#### ⑥ 年代別体験型事業の実施

小学生を対象とした図書館司書体験やフロアボランティア体験、中・高校生以上を対象としたビブリオバトル<sup>※16</sup> など、年代に応じた体験型事業を実施し、本に興味を持つきっかけ作りを行うとともに、新たな本や多くの人に出会える機会を提供します。

#### ⑦ 小・中学生及び高校生によるボランティア活動の実施

高校生によるサークル<sup>※17</sup>の定期的な活動を支援し、中・高校生向けのブックリストの作成や展示コーナーにおけるおすすめ本の紹介など、中・高校生の視点による利用しやすいコーナー作りに取り組みます。

また、小・中学生が、年下の幼児や児童に対して読み聞かせを行う機会を提供するとともに、継続的なボランティア活動に発展するようサークル設立への支援を行います。

#### ⑧ 施設見学、職場体験の受入

幼稚園児や小学生などの施設見学の受け入れに当たっては、子どもたちが図書館を身近な場所として感じられるよう、少人数に分けた細やかな案内や説明をボランティアの協力を得て行います。

中・高校生の職業体験の受け入れを行い、図書館業務の体験を通して、読書の大切さや楽しさについての理解促進につとめます。



ボランティアの協力による施設見学

### (3) 公共施設における取組の推進

#### ① 社会教育施設等での読書活動の実施

図書館、百年記念館、動物園、児童会館の4館連携事業<sup>※18</sup>として、おはなし会や子ども向け講演会をボランティアの協力を得て開催します。また、緑ヶ丘公園を会場に行う「よりどりみどりがおかフェスタ！」<sup>※19</sup>においては、おはなし会を開催するほか、移動図書館バス「ナウマン号」<sup>※20</sup>を配車し、本の貸出を行うなど、本にふれあう機会の提供や図書館の情報提供を行います。

児童会館において、会館利用団体である十勝人形劇協議会による絵本を題材とした人形劇公演や、図書を利用した科学行事、親子で行う工作教室などを開催し、読書や科学への興味や関心、知識を深めます。

#### ② 乳幼児健診会場で絵本にふれあう機会の提供

保健福祉センターで行う5か月児健診、1歳6か月児健診時に、待合スペースに絵本やブックリストを設置し、健診の合間に親子で絵本にふれあえる機会を提供します。

### (4) 民間団体の活動に対する支援

#### ① 読書団体・ボランティア団体に対する情報提供及び活動の支援

図書館やコミセンなどでおはなし会や朗読会を行っている多くの読書団体やボランティア団体に対し、活動の場の提供や図書館資料の団体貸出による読書活動の支援を行うとともに、国や北海道が実施している研修会などの情報を提供します。

#### ② 帯広図書館友の会の活動への支援

図書館と利用者をつなぎ、図書館活動の厚みと利用者の楽しみを増す大きな役割を担っている帯広図書館友の会への活動の場や研修機会の提供、他団体との交流や情報交換の場の提供につとめ、活発な活動ができるよう支援します。

また、同会が行う講習会や講座などの受講生に対し、活動できる場の提供に取り組みます。



人形劇きらきらパペットシアター  
(児童会館)



よりどりみどりがおかフェスタでの  
おはなし会



推進方策  
1-2

学校等における子どもの読書活動の機会の提供

日常の学習活動を通じた読書指導の充実をはじめ、朝の読書などの計画的・継続的な推進、家庭と学校、地域との連携による読書機会の提供に取り組みます。

推進の方向性

保育所や幼稚園などにおいては、乳幼児期に読書の楽しさを知ることができるよう、乳幼児が絵本や物語などに親しむ活動を積極的に行っていくことが求められています。

学校においては、従来から国語などの各教科における学習活動を通して読書活動が行われてきており、児童生徒の発達段階を踏まえて、読書の楽しさを指導するとともに、計画的・継続的に読書活動を推進し、読書習慣を身につけさせていくことが重要です。

このため、国語科などの教科を通して多様な読書活動を推進するとともに、全校一斉の読書活動や読み聞かせなどの継続・充実と併せ、学校図書館を利用して児童生徒が主体的に学習活動ができるよう、読書指導や支援体制の充実をはかり、読書活動を支援していくことが必要です。

具体的な取組

(1) 読書指導の充実

① 国語の読書指導の充実

学校教育指導訪問により小・中学校に対し指導と助言を行うとともに、日常生活においても児童生徒の読書意欲が高まるよう、各学校において国語科を中核に、全ての教科を通してさまざまな文章や資料を読んだり調べたりするなど、読書指導の充実をはかります。

② 朝の読書など一斉読書活動の推進や読書週間の活用

平成20年度以降、小・中学校全校において実施されている朝の読書活動などの一斉読書を推進するとともに、こどもの読書週間期間に各種読書に関連する事業の実施や図書館との連携により児童生徒の一層の読書習慣の定着につとめます。



朝の読書の様子

### ③ 学校図書館や図書館を活用した調べ学習の推進

各教科や特別活動、総合的な学習の時間を通して、学校図書館を活用した多様な学習活動を推進します。また、自主的な調べ学習に対し、司書教諭をはじめ専門員<sup>※21</sup>などが支援します。

図書館では、調べ学習などを積極的に受け入れるほか、ぶっくーる便<sup>※22</sup>による学校への支援について、ニーズに沿ったセット内容などの見直しを行い、利用促進をはかります。

また、図書館を上手に活用するための冊子を小学3年生に配布するとともに、図書館においてパスファインダーを利用した調べ物教室を開催し、自ら調べる力を育むための取組をすすめます。

### ④ 帯広南商業高等学校図書館の活用

帯広南商業高等学校（以下「南商」）では毎年1年生を対象に、学校図書館担当職員による利用マナーや利用方法、コンピュータによる情報検索の仕方などについてのオリエンテーションや生徒の興味関心を深めるためのブックトーク<sup>※23</sup>を行い、生徒の図書館利用を促進します。



おすすめ本のPOPを作成

また、図書館ニュースや図書館新聞を定期的に発行するとともに、新刊やおすすめの本の紹介、学校行事や時事に即した多様な図書情報を提供するブックリストの作成に取り組みます。

学校図書館を活用した授業では、大学図書館や図書館と連携し内容の充実につとめます。

また、高校における図書館活動については、十勝高等学校文化連盟などにおける図書館研修や情報交換を通して連携を深めます。

## (2) 家庭・地域との連携による取組の推進

### ① 学校図書館運営委員会等による本の読み聞かせの実施

学校における本の読み聞かせについては、学校図書館運営委員会とボランティアとの連携につとめるとともに、語り手育成講習会などを活用し、読み聞かせの技術向上をはかります。

### ② 学校図書館土曜開放の実施

学校図書館土曜開放については、開放校の拡大につとめるとともに、ボランティアと連携し利用促進をはかります。

③ 子どもの居場所づくり事業における読み聞かせの実施

平日の放課後と土曜日の午前中に学校を使用し行っている子どもの居場所づくり事業において、ボランティアの協力を得て読み聞かせなどを行い、本にふれあう機会を提供します。

④ 南商生の小・中学生向けおはなし会の実施

南商の学校祭などにおいて、生徒による幼児や児童生徒を対象としたおはなし会を開催します。

(3) 障害のある子どもに対する取組の推進

① 障害のある子どもに対応した図書の整備

障害のある子どもが障害の状況に応じた豊かな読書活動を体験できるよう、大型絵本や大型紙芝居などの整備をすすめます。

② 学校図書館運営委員会等による本の読み聞かせの実施

障害などにより本を読むことが困難な子どもについても、本に対する興味や関心を持つことができるよう、学校図書館運営委員会などのボランティアによる読み聞かせを実施し、読書活動に接する機会の拡大をはかります。

(4) 保育所・幼稚園等における取組の推進

① 親子の絵本との出会い促進

保育所や幼稚園において定期的開催しているあそびの広場において読み聞かせなどを行い、在宅の親子が絵本にふれあう機会を提供します。

② 保育所・幼稚園での絵本の活用

保育所や幼稚園に設置している図書の整備をすすめ、保育時に読み聞かせを行うとともに家庭に対して本の貸出を行います。また、保護者に対し読み聞かせなどの大切さや意義を広く普及します。

図書館では、保育所や幼稚園における読書活動を支援するため団体貸出を行うほか、セット絵本の貸出について利用状況に応じた内容の工夫につとめ、利用促進をはかります。

③ 児童保育センターでの本の活用

児童保育センター<sup>※24</sup>に対し団体貸出や選書の協力を行い、児童保育センターにおける読書活動を支援します。

—基本方向2— 子どもの読書活動を推進するための読書環境の整備

推進方策  
2-1

図書館等の整備・充実

子どもの読書活動の環境づくりに向け、図書館などの図書館資料等の整備・充実に取り組みます。

推進の方向性

ユネスコ公共図書館宣言<sup>\*25</sup>では、「地域において知識を得る窓口である公共図書館は、個人および社会集団の生涯学習、独自の意思決定および文化的発展のための基本的条件を提供する」とされています。

子どもたち一人ひとりが、自分の読みたい本を豊富な図書の中から自由に選択し、読書の楽しさを知り、豊かな創造性や読解力を身につけていくため、図書館は地域において大きな役割を担っています。

この計画の対象年齢である0歳からおおむね18歳は、本に出会い、本に親しみ、本から学び、本とともに成長する重要な時期です。子どもたちが読書を通して自ら必要な情報を収集し、意思決定し、問題解決をはかることができるよう図書館における読書環境の整備が求められています。

具体的な取組

(1) 図書館の図書館資料等の整備・充実

① 図書館資料の整備・充実

乳幼児には絵本に親しんでもらうため、良質な絵本や布の絵本、紙芝居、大型絵本など、児童生徒向けには文学やノンフィクション、自然科学、芸術・スポーツなど、子どもたちが興味や関心を持つ幅広い図書館資料の計画的な整備と更新につとめます。

また、北海道に関わりのある民話や絵本のほか、アイヌ文化などに関する児童書の収集につとめます。

図書館で不用となった絵本や児童書については、リユース会<sup>\*26</sup>を通して学校図書館や多くの親子が利用する公共施設に還元して再利用を行い、図書の有効活用をはかります。

＜表2-2＞図書館における児童図書の蔵書数と貸出状況

年度	児童図書の蔵書数	児童図書の年間貸出冊数	幼児・児童一人当たりの貸出冊数
平成 20 年度	86,844 冊	306,632 冊	17.4 冊 (11.5 冊)
平成 25 年度	96,867 冊	300,682 冊	18.1 冊 (12.2 冊)

出典: 数値は、帯広市図書館調べ 児童図書の蔵書数は本館＋移動図書館＋紙芝居の合計

( ) 書きは、北海道図書館振興協議会「北海道の図書館」(平成 20 年度、24 年度)による北海道の数値

## ② 移動図書館バスの巡回

移動図書館バス「ナウマン号」は、子育て中の母親など図書館に来ることが困難な市民に 1 冊でも多くの図書を届けるため、市内 54 か所のステーションと農村部の小・中学校 9 校などを定期的に巡回しています。

ステーションへの安定した運行を行うとともに利用者ニーズに応じた積載図書の工夫をはかり、広報おびひろなどさまざまな媒体や機会を通して市内巡回の周知を行い、利用促進をはかります。

## ③ 図書館の情報化

図書館資料のデジタル化をすすめ、ホームページを通して、資料の検索や蔵書の貸出状況、貸出期間の延長など図書館に関する情報の検索が容易にできるように取り組みます。

また、館内では図書検索機やインターネット、国立国会図書館のデジタル化資料送信サービスなどにより、本の情報や生活・学習に役立つ情報を提供し、利用者の利便性の向上をはかります。

## ④ 読書活動に関する情報の整備・充実

図書や行事など読書活動に関するさまざまな情報を提供するとともに、利用者の相談に応じるレファレンス能力の向上につとめます。

読書情報では、乳幼児から高校生までの発達段階に応じたブックリストや定期的な情報誌<sup>※</sup><sub>27</sub>の発行により、子どもたちにとって魅力的な情報の提供と、子どもの本を選ぶ大人の参考となる情報の発信につとめます。



移動図書館バス「ナウマン号」

### ⑤ 児童図書コーナー等の整備・充実

児童図書コーナーは、幼児や児童生徒が、自ら絵本や紙芝居などを手に取り選べるよう、子どもの視線にあわせた低い本棚や絵本の表紙を見せる配置を行います。また、おはなし室や授乳室、幼児用の小さな水のみ場とトイレを配置し、親子で自由に楽しく過ごせる場として提供します。

中・高校生を対象としたヤングアダルトコーナーのほか、総合学習室やグループ研修室、学習コーナーなど、来館者の利用目的に応じた場の提供と利用促進につとめます。

ブックリストなどを館内各所に配置するほか、新刊紹介や月毎の特集コーナー、参加型のおすすめ本紹介コーナーなどを設け、来館者の興味を広げるための工夫につとめます。

高校生によるサークル活動の協力を得て、ヤングアダルトコーナーの充実をはかります。

### ⑥ 図書館利用者カードの登録促進

小学校の新1年生の希望者に対し、図書館利用者カードを作成し、子どもの利用促進につとめます。また、帯広市への転入者に対し、図書館の利用案内などのパンフレットを配布し、図書館の周知と利用促進をはかります。

## (2) 障害のある子どもの読書環境の整備・充実

### ① 子どもの図書館資料の整備・充実

視覚に障害のある子どもに対しては、大活字本や布の絵本、大型絵本、録音図書、副音声付映像資料などの充実をはかるとともに、聴覚に障害のある子どもに対しては、字幕付映像資料の充実をはかります。

また、小・中学校における障害のある子どもの読書活動の機会拡大に向け、障害の内容や発達段階に応じて、子どもの興味をひく大型絵本、大型紙芝居などの図書の整備をすすめます。

### ② 施設・設備の維持管理

多目的トイレや授乳室、車椅子に対応した家具を設置するなど、小さな子どもや障害者、高齢者、妊婦、乳母車の方など、誰もが安心して利用できるユニバーサルデザインに基づく建物として、引き続き適正な施設管理を行っていきます。

来館者がいつでも安心して利用できるよう、図書館の施設・設備の良好な維持管理につとめます。



授乳室



児童トイレ (キッズサイズ)

### (3) 公共施設の図書資料の整備・充実

#### ① コミセン図書室等の図書資料の整備・充実

コミセン図書室や地域福祉センター、保健福祉センター、児童会館などに図書館から配本している図書の定期的な入替えを行い図書資料の整備・充実をはかり、児童生徒が歩いて気軽に本を借りられる読書環境の整備につとめます。

#### ② 児童会館の図書資料の整備・充実

児童会館では、遊びながら身近に本と接することができるよう図書コーナーの科学系図書や、親子の交流の場である「もっくんひろば」の絵本や童話などの整備・充実につとめます。また、図書館からの配本などにより図書の充実をはかります。

#### ③ 保健福祉センターの図書資料の整備・充実

保健福祉センターでは、親子が気軽に立ち寄れる1階乳幼児プレイルームに「さない文庫」<sup>※28</sup>、3階の図書コーナーに児童書などを配置し、閲覧・貸出を行うとともに、図書館からの配本などにより図書コーナーの充実をはかります。

#### ④ 森の交流館・十勝の図書資料の整備・充実

森の交流館・十勝では、在住外国人やJICA研修員から提供された自国の絵本などを図書資料室に設置し、広く市民に利用してもらえるようつとめます。



コミセン図書室



児童会館 「もっくんひろば」

推進方策  
2-2

学校図書館の整備・充実

学校図書館の図書館資料の整備・充実をはかるとともに、図書館や学校図書館運営委員会などとの連携・協力による児童生徒の読書活動や読書指導・支援の充実に取り組みます。

推進の方向性

学校図書館は、学びの場であるとともに、昼休みや放課後に好きな本を選び自分のペースで読んだり、興味があることをじっくり調べるなどの自由な読書活動の場として、また思い思いに過ごせる心の居場所として、子どもの成長を支える重要な役割を担っています。

子どもの豊かな読書経験の機会を充実していくためには、子どもの知的活動を推進し、さまざまな興味や関心に応える魅力的な学校図書館を整備・充実していくことが必要です。

また、各教科、特別活動、総合的な学習の時間において多様な教育活動を展開していくためにも、学校図書館資料を充実していくことが求められています。

こうした学校図書館の運営・活用には、司書教諭をはじめ全ての教職員、専門員やボランティア、図書館などが連携していくことが重要です。

具体的な取組

(1) 学校図書館の図書館資料等の整備・充実

① 図書館資料の整備・充実

学校の図書館資料については、国の学校図書館図書標準冊数を踏まえ計画的な整備をすすめます。

また、図書館資料の増加により、蔵書スペースが手狭となっている状況も見られることから、展示・保管場所の確保と計画的な廃棄により、図書の質の確保をはかります。

② 子どもが読書活動するスペースの整備

子どもが読みたい時に、いつでも本を手にとることができるよう、本や棚の配置を工夫し、子どもの身近なところに図書を用意するなどして読書活動の日常化につとめます。

③ 学校図書館の情報化

学校図書館システムの運用を充実するため、図書館担当教員や学校図書館運営委員を対象にシステム業者による講習会を実施し、操作方法やデータ管理などの習熟につとめます。



#### ④ 南商図書館の情報化

図書館管理システムによる貸出や統計、蔵書管理を維持するため定期的な機器やシステムの更新がスムーズにできる体制づくりにつとめます。

レファレンスツールとして、最新の情報やデータを入手するためにインターネットを活用し、情報収集や提供機能の充実をはかります。

### (2) 学校図書館の機能の充実

#### ① 司書教諭等による指導・支援

司書教諭を中心に図書館資料の整備のほか読書活動に関する指導などを行い、児童生徒が学校図書館を有効に活用できるようつとめます。

平成 26 年6月の学校図書館法の一部改正により、児童生徒による学校図書館の利用の一層の促進のため、学校司書<sup>\*29</sup>の配置が努力義務となり、学校司書の配置を含め、より活用しやすい学校図書館づくりについて検討をすすめます。

#### ② 専門員による支援

各学校に配置している学校図書館運営委員会の専門員による学校図書館業務により、児童生徒が利用しやすい図書館の環境づくりをすすめます。

#### ③ ボランティアの活用

図書館資料の受入れや貸出・返却、図書の補修、書棚の整理などの学校図書館業務をはじめ、読み聞かせや広報活動などについて、学校図書館運営委員会の地域ボランティア、PTA、専門員、司書教諭などが協力・連携して取り組み、子どもの読書活動をすすめます。

#### ④ 図書館との連携

学校や学校図書館運営委員会が、ぶっくーる便や学校図書館クリニックなど、図書館が行っている学校図書館支援事業などを活用し、読み聞かせや図書の整理・補修の技術指導、情報提供などを受けることにより、学校図書館の充実をはかります。



学校図書館クリニック 司書の指導のもと学校の図書館を改造

推進方策  
2-3

子どもの読書活動の推進に係る体制の整備

関係機関や民間団体などの連携・協力をすすめ、地域全体で子どもの読書活動の推進に取り組むとともに、教職員や図書館司書の研修の充実につとめます。

推進の方向性

子どもの自主的な読書活動を推進するためには、関係機関や民間団体が連携・協力し、地域全体で読書活動を推進する体制づくりが重要です。

また、教職員や図書館司書は、子どもの発達段階に応じた図書を選択に関する知識や子どもの読書指導に関する知識・技術を高め、子どもや保護者に対し助言を行うとともに、利用者の相談に応じることが望まれます。こうした役割を果たしていくために必要な専門的知識や技術を取得することができるよう、研修の充実をはかっていくことが必要です。

具体的な取組

(1) 子どもの読書活動推進会議の運営

① 帯広市子どもの読書活動推進会議の運営

「帯広市子どもの読書活動推進会議」を通して、施策の推進や連絡調整、情報交換などにつとめ、地域全体の子どもの読書活動の推進をはかります。

(2) 関係機関・民間団体等の連携・協力の促進

① 読書団体・ボランティア等との連携・協力

図書館や学校、保育所などでは、多くの読書団体やボランティア団体などが活動しています。こうした団体と連携・協力しながら、子どもの読書活動にかかわる事業を実施します。



帯広図書館友の会 おはなし会

## ② 帯広市学校公共図書館研究会との連携・協力

図書館では、帯広市学校公共図書館研究会との連携・協力をすすめるとともに、図書館サービスにかかわる実務研修や交流の場を設け、関係職員の資質向上をはかります。

また、子どもたちに読書に対する興味や関心を持ってもらうため読書感想文コンクールなどを実施します。

## (3) 教職員等の研修の充実

### ① 教職員の研修の実施

帯広市教育研究会の「図書館教育部会」を通して、朝の読書や読み聞かせの取組など、子どもの読書活動を促す教育活動のあり方について研修を実施し、教職員の資質と能力の向上をはかります。

### ② 学校図書館運営委員の研修の実施

学校図書館運営委員に対して、図書館システムなどを使った学校図書館業務や読み聞かせなどの研修を行い、資質と技術の向上をはかります。

図書館では、こうした研修の充実がはかられるよう支援につとめます。

## (4) 図書館司書の研修の充実

### ① 図書館司書の研修の実施

図書館司書は、児童図書をはじめ図書館資料の選択・収集・提供、利用者に対する読書相談、子どもの読書活動に対する指導、民間団体との連携など、子どもの読書活動を推進する上で重要な役割を担っています。

図書館司書に対し、日常業務での研鑽をはじめ、自己研修や十勝管内公共図書館協議会<sup>※30</sup>などが行う研修会への参加機会を設け、専門性の向上につとめます。



十勝管内図書館の司書が集まり合同研修会を開催

—基本方向3— 子どもの読書活動に関する普及・啓発

推進方策  
3-1

啓発・広報事業の推進

子どもの読書活動に関する各種情報の提供及び読書活動の重要性についての啓発・理解促進に取り組みます。

推進の方向性

子どもの読書活動を推進していくため、図書館資料の蔵書状況や貸出情報、おはなし会などの行事、子どもの読書活動に関する情報について、さまざまな媒体を通して広く地域住民に提供することが重要です。

また、子どもの読書活動の意義や重要性についての普及・啓発につとめ、市民の理解促進をはかることが必要です。

具体的な取組

(1) 子どもの読書活動に関する理解の促進

① こどもの読書週間等における普及・啓発

図書館では、こどもの読書週間や読書週間<sup>※31</sup>に合わせ、読書団体やボランティアと協力・連携し、おはなし会や読み聞かせ、フェスティバルや講習会などを開催し、子どもの読書活動の意義や重要性について、広く普及・啓発をはかります。

また、小・中学校においても、こどもの読書週間の事業と連動し、保護者や児童生徒への読書活動に対する理解促進につとめます。

帯広開拓クイズにチャレンジ

～地域資料を調べよう～



まめっこ探検隊

～図書館の秘密捜査開始～



こどもの読書週間事業

## (2) 優れた取組の奨励

### ① 優れた取組の奨励

第二期計画期間中に、2団体が十勝管内教育実践・活動表彰と優良読書グループとして、また、帯広市図書館も子どもの読書活動優秀実践図書館として表彰<sup>※32</sup>されました。

これからも特色ある優れた実践を行っている民間団体や個人に対し、国や北海道、民間団体などが行っている表彰に推薦し、その取組を奨励します。

## (3) 優良図書 の普及

### ① 優良図書の家庭・地域・学校への普及

乳幼児健診や子育てに関する講演会、学校などを通して、各種ブックリストを配布します。

また、図書館各コーナーにブックリストやパスファインダーを設置するとともに、その効果的な利用方法について情報提供を行います。

## (4) 各種情報の収集・提供

### ① 子どもの読書活動に関する情報の収集・提供

本市における子どもの読書活動に関する取組や進捗状況をはじめ、国や北海道、他自治体などの子どもの読書活動に関する情報を収集し、図書館内に配置するとともに、市や図書館のホームページ、広報おびひろなどにより広く情報提供を行います。

### ② 行事情報の提供

図書館が主体となって実施する行事はもとより、各自治体や民間団体の行事情報の収集につとめるとともに、図書館や公共施設においてパンフレット類の配置・掲示を行うほか、広報おびひろやホームページ、ソーシャルネットワーキングサービス、報道機関などを通して情報提供を行います。

情報提供を希望する団体などを登録し、子どもの読書活動にかかる行事情報の発信を行います。

## 第3章 計画の推進

### 1 子どもの読書活動推進計画の点検・評価

#### (1) 子どもの読書活動推進計画の点検・評価の実施

計画の進捗状況について毎年度、点検・評価を行うとともに、帯広市子どもの読書活動推進会議に報告し、その意見などを踏まえて計画を推進します。

#### (2) 目標値の設定

教育基本計画の個別計画としての性格を踏まえるとともに、計画の進捗状況を確認するため、次の4項目を目標値として設定します。

- ① 図書館が行うおはなし会、朗読会の参加者数
- ② 読書が好きな児童生徒の割合
- ③ 図書館における幼児・児童1人当たりの児童図書の出借冊数
- ④ 家庭などにおいて平日1日当たり10分以上読書をする児童生徒の割合

<表3-1>第三期計画の取組目標

指標の概要	基準年度の状況	取組目標 (平成31年度)
① 図書館が行うおはなし会、朗読会の参加者数	3,256人 (平成25年度)	3,600人
② 読書が好きな児童生徒の割合（小中学校読書アンケート調査結果の数値）	小学生 85.6% 中学生 81.9% (平成26年度)	いずれも増加
③ 図書館における幼児・児童1人当たりの児童図書の出借冊数	18.1冊 (平成25年度)	20冊
④ 家庭などにおいて平日1日当たり10分以上読書をする児童生徒の割合（小中学校読書アンケート調査結果の数値）	小学生 67.7% 中学生 68.3% (平成26年度)	いずれも70%



# 資 料 編

資料-1	用語解説	・・・	29
資料-2	平成26年度帯広市小中学校読書アンケート調査結果報告書		
	Ⅰ 調査の概要	・・・	35
	Ⅱ 調査の結果	・・・	36





---

## 用語解説

---

### ※1 発達段階に応じたブックリスト P 3

#### ○乳幼児向けブックリスト

- ・「おすすめ絵本リスト」

0～1歳児向け：5か月児健診時に配布

2～3歳児向け：1歳6か月児健診時に配布

4～5歳児向け：3歳児健診時に配布

おにいちゃんおねえちゃんオススメ絵本リスト：随時

- ・「トイレトレーニング」：図書館に設置

#### ○食育を推進するブックリスト

帯広市食育推進計画の基本理念に基づき、食についての知識や理解を深め、心身ともに健康で豊かな生活をおくるために、乳幼児とその保護者や小学生を対象に食に関するブックリストを図書館が作成し配布している。

- ・「食ナビ☆ベビー」：平成25年度から5か月児健診時に配布

- ・「食ナビ☆キッズ」：平成24年度から年に1回小学生全員に配布

### ※2 子育て応援バッグ P 3

忙しい保護者の子育て支援を目的とし、図書館発行の「おすすめ絵本リスト」に掲載している絵本の中から10冊をセットにしたバッグ「プチトマト」を平成21年度から、歯みがきや着替えなど生活に関する絵本5冊をセットにしたバッグ「プチコーン」を平成24年度から用意し、セット単位での貸出を行っている。

### ※3 不読率 P 3

一定期間1冊も本を読まなかった不読者の割合をいう。

### ※4 学校図書館図書標準冊数 P 3

公立の義務教育の学校において、学校図書館の整備をはかる際の目標として、学級数に応じて設定した標準冊数のこと。平成5年3月に文部省（当時）が定めた。

### ※5 司書教諭 P 3

教諭として採用された者のうち司書教諭の講習を修了した者。学校図書館資料を選択・収集・保存し、これを児童生徒や教員の利用に供するために設けられた学校図書館の専門的職務に従事する。

学校図書館法により、学級数が合計12学級以上の学校には、司書教諭を置かなければならないと規定されている。

## 資料-1 用語解説

### ※6 学校図書館活性化支援事業運営委員会 P 3

児童生徒の心豊かな成長と、必要な情報の収集及び活用能力の向上をはかり、もって、学校図書館を活性化し、地域社会の発展に資することを目的として、帯広市が平成 13 年度から行っている学校図書館活性化支援事業を運営するため、小・中学校単位で設置された委員会。

運営委員会は、学校図書館に置く専門員、ボランティア、PTA、学校教職員、その他校長が必要と認める者で構成され、図書の受入、貸出、おはなし会などを行う。

### ※7 帯広市学校公共図書館研究会 P 3

小・中学校の図書館担当者と帯広市図書館職員を会員として、学校および公共図書館の発展と図書館関係職員の資質の向上を目的として昭和 34 年 4 月に設置された研究会。

### ※8 絵本との出会い事業 P 7

絵本を通して親子のふれあいを育み、赤ちゃんとの楽しいひとときを持ってもらうために、絵本との出会い事業ボランティアの会「ゆりかご」の協力を得て、5 か月児健診を受診する親子を対象に、絵本を 1 冊無料で手渡す事業。平成 16 年度から開始しており、その際、読み聞かせのアドバイスやブックリストをあわせて配布し読書の支援を行う。一般的にブックスタート事業といわれている。

### ※9 子育てメール通信 P 8

0～3 歳の誕生日まで、月齢にあわせた子どもの発達や子育て情報などを「子育て応援メッセージ」として希望者にメール配信する。

### ※10 地域子育て支援センター P 8

保育所に併設して市内に 6 か所設置されており、0 歳から就学前までの乳幼児とその親を対象に、親子が気軽に集い相互交流や子育ての不安や悩みを相談できる場として、地域の子育て関連の情報提供や各種講座などを実施する施設。

### ※11 北海道「朝読・家読運動」 P 9

北海道教育委員会が子どもの望ましい読書習慣の定着をはかるために、平成 23 年度から実施している取組。

- ・「朝読（あさどく）」：学校における始業前の一斉読書の取組。
- ・「家読（うちどく）」：家庭での読書を通して、家族のコミュニケーションをはかろうという取組。  
決まったルールはなく、保護者による絵本の読み聞かせのほか、家族で同じ本を読み話し合う、家族みんなで読書をするなど、さまざまな取組が行われている。

### ※12 パスファインダー P10

特定のテーマについて調べるため、役立つ資料をわかりやすく紹介したガイドブック。

平成 18 年度から作成を開始し、平成 26 年度現在、子ども向けは主に調べ学習に役立つテーマ 31 種類、大人向けは日々の暮らしに役立つような幅広いテーマ 22 種類を作成。

### ※13 こどもの読書週間 P10

社団法人読書推進運動協議会が「幼少の頃より書物に親しみ、読書の喜びを身に付けてほしい」との趣旨で、昭和 34 年に 4 月 23 日から 5 月 12 日をこどもの読書週間として制定した。

平成 13 年 12 月 21 日に施行された子どもの読書活動推進に関する法律において、読書週間の初日である 4 月 23 日を「子ども読書の日」として設けた。

### ※14 定期的なおはなし会 P10

児童生徒に童話や絵本に親しむ機会を提供し、豊かな情操を育むとともに、読書意欲の向上をはかることを目的に、図書館で毎週土曜日（対象：幼児～小学校低学年）と第 2・第 4 水曜日（対象：乳児）にボランティアの協力を得て、定期的におはなし会を実施している。

- ・毎月第 1 土曜日 11:00～11:30 土曜童話会 S44.6～
- ・毎月第 2 土曜日 11:00～11:30 土曜朗読会 H4.9～
- ・毎月第 3 土曜日 11:00～11:30 おひさまおはなし会 H17～
- ・毎月第 4 土曜日 11:00～11:30 土曜おはなし会 H7.4～
- ・毎月第 5 土曜日 11:00～11:30 キラキラおはなし会 H23.4～
- ・毎月第 2 水曜日 11:00～11:20 おひさまおはなし会 H18.3～
- ・毎月第 4 水曜日 11:00～11:20 にこにこおはなし会 H25.4～

### ※15 帯広図書館友の会 P10

平成 14 年に市民協働の図書館づくりをすすめるために発足したボランティア団体。

会員の自己啓発、学習、交流の場として、図書館を拠点に 6 部門による活動を行っている。

- ・ハンディキャップサポート部門・・・障害者サービスなど
- ・製本部門・・・・・・・・・・・・・・・・・図書の修理・製本など
- ・製作部門・・・・・・・・・・・・・・・・・布の絵本の製作など
- ・つどい部門・・・・・・・・・・・・・・・・・冬休み子ども図書館のつどいなどの企画運営
- ・おはなし部門（おひさま）・・・・・・・・・おはなし会など
- ・フロアサポート部門・・・・・・・・・・・・・・本の配架など

## 資料-1 用語解説

### ※16 ビブリオバトル P11

発表者数名が、読んで面白いと思った本について1人5分程度口頭によるプレゼンテーションを順に行った後、どの本が一番読みたくなったかを、発表者を含む会場の参加者全員の投票で決める方法。「知的書評合戦」とも呼ばれている。

### ※17 高校生によるサークル P11

中・高校生の視点で図書館の活動に参加してもらうことにより、その世代にとって利用しやすい図書館となるよう、平成25年度にメンバーを募集して発足したサークル。ヤングアダルトを略した愛称である「ヤンアダ応援隊」として、図書館を会場に定期的な活動を行っている。

ヤングアダルトとは、図書館用語集四訂版では「自分では子どもだと思っていないが、周囲はまだ大人だと考えていない13歳から18歳頃までをいう」と定義している。

### ※18 4館連携事業 P12

図書館、百年記念館、動物園、児童会館が、それぞれの施設の特色を活かしつつ連携し、新たな魅力ある学習機会の提供や施設の利用促進をはかることを目的とした事業。

社会教育施設連携アクションプログラムが正式名称で、平成22年度から実施。

### ※19 よりどりみどりがおかフェスタ！ P12

4館連携事業のひとつとして、子どもを対象に緑ヶ丘公園内の各施設を会場に、体験教室やおはなし会、スタンプラリーなどを行い、参加者に楽しんでもらうイベント。

4館が主催し、みどりと花のセンターや北海道立帯広美術館などの協力を得て、平成25年度から開催している。

### ※20 移動図書館バス「ナウマン号」 P12

図書館本館に来ることが困難な人のために、絵本や児童書、小説などを積載して定期的に地域を巡回し本を貸し出す移動図書館バスの愛称。昭和41年度に運行を開始し、愛称は公募により昭和45年度に決定した。平成24年10月にバスの更新を行い、更新前より800冊増の3,500冊の本を積載している。1人10冊を上限に、次の巡回日までの約1か月間借りることができる。

### ※21 専門員 P14

学校図書館活性化支援事業において、学校図書館業務に関する専門的知識を有する者で、学校図書館の業務を行い、児童生徒の読書活動の支援などを行う。

**※22 ぶっくーる便 P14**

図書館による学校向け一括貸出セット。学校で実施する朝の読書や調べ学習に対応し、テーマごとに35冊をコンテナに詰め、2週間の貸出期限で配送する。

平成18年度に41セットで開始し、平成26年度は68セット揃えている。

**※23 ブックトーク P14**

あるテーマのもとに流れをつくりながら、何冊かのさまざまなジャンルの本をあらすじやエピソードを添えて紹介し、その本の面白さを伝える方法。

**※24 児童保育センター P15**

小学生のうち、保護者が仕事や病気などの理由により、放課後や長期休暇期間（春夏冬休み）に家庭で保育ができない子どもを保育する施設。

**※25 ユネスコ公共図書館宣言 P16**

平成6年11月にユネスコ（国際連合教育科学文化機関）が採択した図書館の役割・理念などを宣言としてまとめたもの。宣言の中で、「ユネスコは国および地方の政府が公共図書館の発展を支援し、かつ積極的に関与することを奨励する」と明記している。

**※26 リユース会 P16**

学校公共図書館研究会と連携し、図書館で不用になった絵本や児童書を、学校や保育園などに再利用してもらうために、2年に1回程度実施している会。

**※27 定期的な情報誌 P17**

図書館が情報発信のために定期的に発行している情報誌。

- ・毎月の発行：「よむよむ☆タイムズ」、「食☆ナビ」、「新着図書案内」、「行事予定」
- ・季刊誌の発行：「TEEN'S」

**※28 さない文庫 P19**

平成18年に真井氏からの寄贈により整備した文庫。乳幼児向けの絵本や子育てに関する本約850冊を保健福祉センター1階の乳幼児プレールーム内に設置。貸出は、1人2冊まで1週間。

**※29 学校司書 P21**

司書教諭と連携しながら、学校図書館の運営の改善及び向上をはかり、児童生徒及び教員による学校図書館の利用の一層の促進に資するため、もっぱら学校図書館の職務に従事する職員。

学校図書館法の一部を改正する法律が平成26年6月27日に公布され、学校には学校司書を置くように努めなければならないと規定されている。平成27年4月1日から施行。

## 資料-1 用語解説

### ※30 十勝管内公共図書館協議会 P23

十勝管内の公共図書館が相互の連携・協力により、図書館機能の充実と住民サービスの向上をはかることを目的として、昭和54年に設立した組織。

毎年、前期・後期の研修会と4回の司書部会を開催し、十勝管内の図書館司書の専門性の向上をはかっている。

### ※31 読書週間 P24

終戦間もない昭和22年に「読書の力によって、平和な文化国家を作ろう」という決意のもと、出版社・取次会社・書店と公共図書館、新聞・放送の報道機関により、11月17日から第1回読書週間が開催された。翌年の第2回からは期間が、文化の日を中心とした10月27日～11月9日の2週間と定められ、この運動は全国に広がり、平成26年度には第68回となる。

### ※32 表彰 P25

第二期計画期間中に次の3団体が表彰された。

- ・十勝管内教育実践・活動表彰

帯広市学校公共図書館研究会：平成22年度教育実践表彰

- ・優良読書グループ表彰

大空文庫の会：平成23年度北海道表彰

- ・子どもの読書活動優秀実践校・図書館・団体（個人）に対する文部科学大臣表彰

帯広市図書館：平成24年度優秀実践図書館

# 平成26年度帯広市小中学校読書アンケート調査結果報告書

## 【I 調査の概要】

### 1. 調査の目的

帯広市の子どもたちの読書に対する意識や実態を調査し、図書館運営及び「第三期帯広市子どもの読書活動推進計画」の策定に向けた基礎資料とするもの

### 2. 調査対象及び調査方法

調査対象：帯広市内の小学4年生～中学3年生 地区を考慮し学年単位で学校を選定

調査数：小学生1,157人（20校）、中学生923人（8校） 合計2,080人（調査対象数の26%）

調査期間：平成26年6月11日～20日

調査方法：学校の教室にて、調査表を配布、記入をし、その場で回収（無記名）

#### ●調査数内訳

小学生	男	女	その他	合計	中学生	男	女	その他	合計
4年生	199	191	0	390	1年生	157	140	4	301
5年生	191	196	3	390	2年生	170	137	1	308
6年生	199	177	1	377	3年生	157	157	0	314
合計	589	564	4	1,157	合計	484	434	5	923

#### ●実施校一覧

		川北地区	東地区	鉄南地区	南地区	西地区	西帯地区	農村地区
小学校	4年生	啓北小	東小	明星小	豊成小	広陽小	開西小	川西小、大正小
	5年生	北栄小	柏小	光南小	大空小	若葉小	つつじヶ丘小	川西小、大正小
	6年生	栄小	帯広小	花園小	稲田小	緑丘小	西小	川西小、大正小
中学校	1年生		翔陽中	第四中				第七中、川西中
	2年生	第一中			大空中			第七中、川西中
	3年生					第八中	緑園中	第七中、川西中

### 3. 調査実施・集計・分析

帯広市図書館

帯広市西2条南14丁目3番地

電話 0155-22-4700

【Ⅱ 調査の結果】

問1. あなたは本を読むのが好きですか。

● 「好き」が、小学生が5割強、中学生が4割台半ば

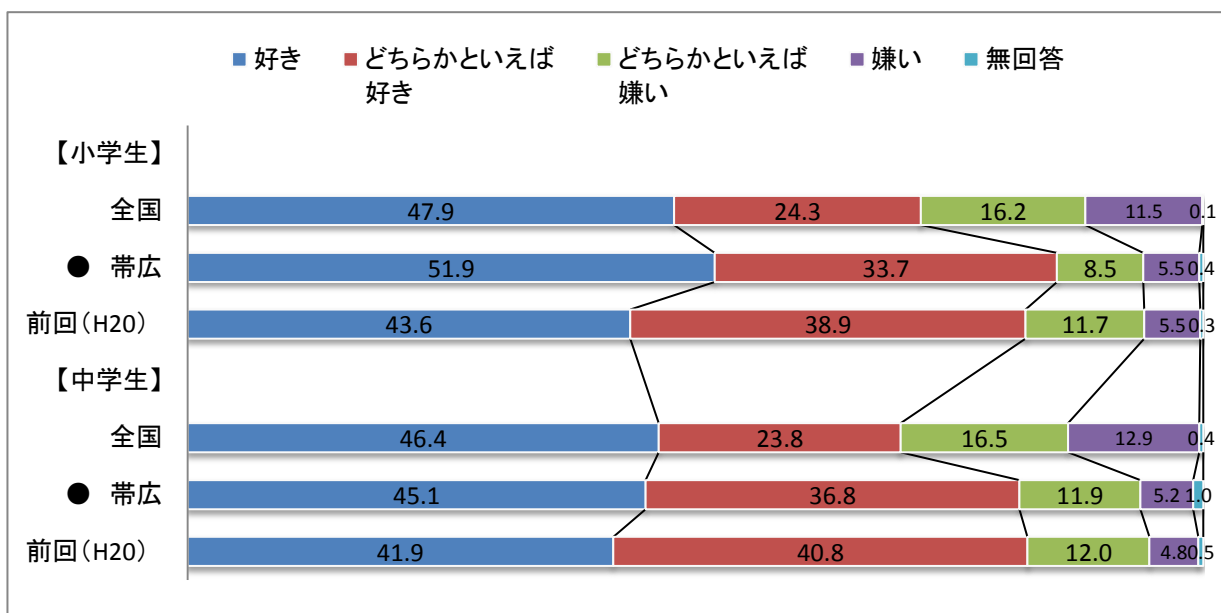
【小学生】

「読書が好き」(51.9%)と答えた割合が最も多く、これに「どちらかといえば好き」(33.7%)をあわせた“読書が好きな児童の割合”は85.6%で、全国(72.2%)より13.4ポイント高くなっている。

【中学生】

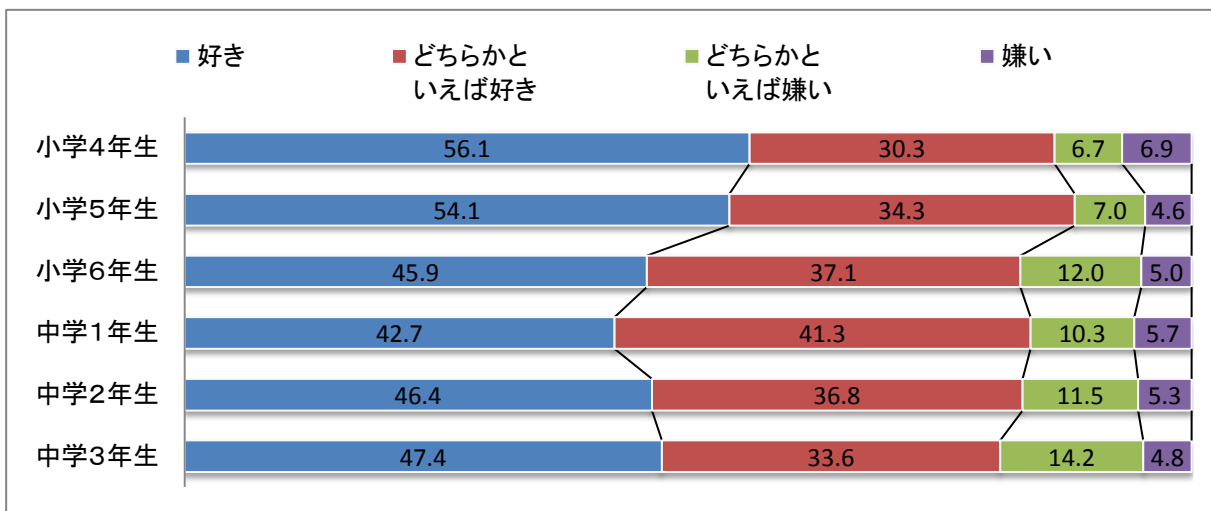
「読書が好き」(45.1%)と答えた割合が最も多く、これに「どちらかといえば好き」(36.8%)をあわせると“読書が好きな児童の割合”は81.9%で、全国(70.2%)より11.7ポイント高くなっている。

図表1 全国\*・前回(平成20年度)との比較



※平成25年度「全国学力・学習状況調査」(文部科学省)

図表1 学年別





問2. あなたは、家や図書館でふだん(月～金曜日)、1日にどれくらいの時間本を読みますか。  
(マンガ、雑誌を除く)

- 「2時間以上」「1時間以上2時間より少ない」「30分以上1時間より少ない」「10分以上30分より少ない」をあわせた“10分以上本を読んでいる”は、小学生、中学生ともに7割

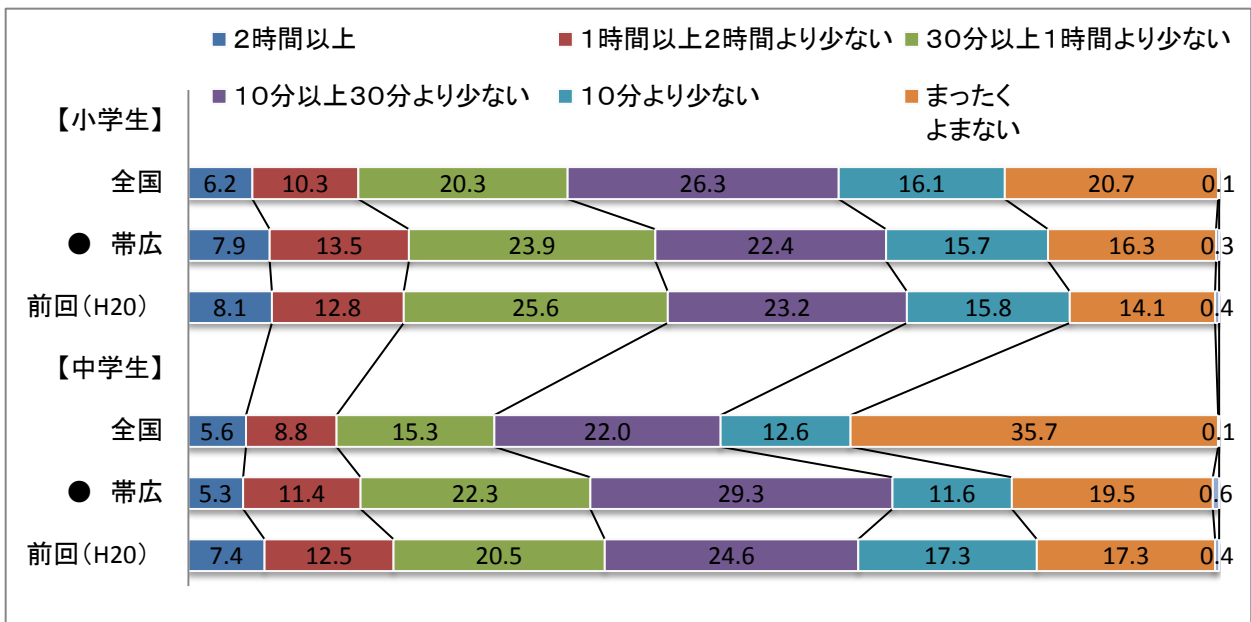
【小学生】

10分以上本を読んでいる割合(67.7%)は前回(69.7%)より2ポイント低いが、全国(63.1%)より4.6ポイント高くなっている。

【中学生】

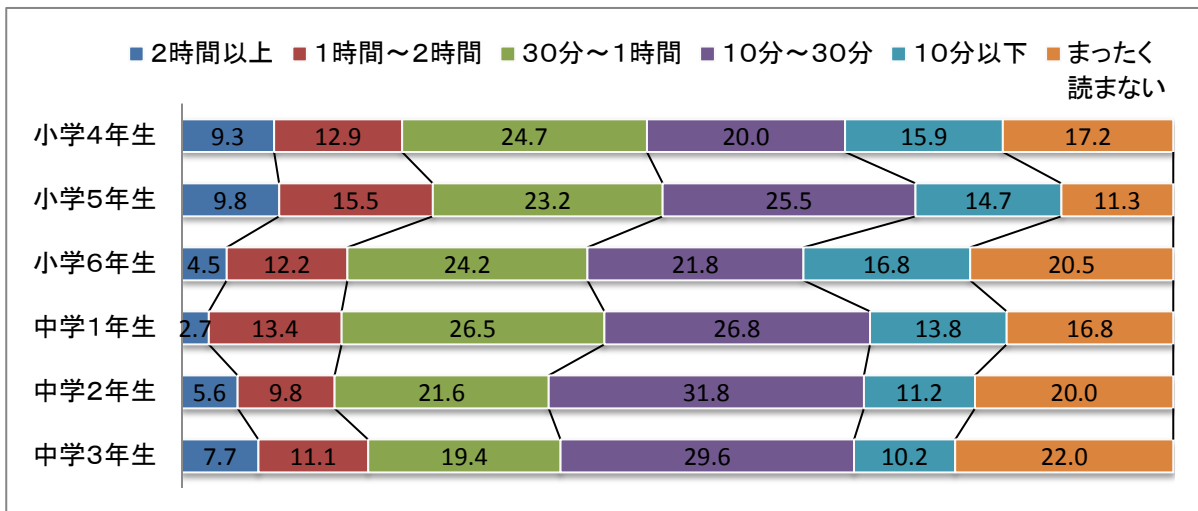
10分以上本を読んでいる割合(68.3%)は前回(65.0%)より3.3ポイント高く、全国(51.7%)より16.6ポイント高くなっている。

図表2 全国※・前回(平成20年度)との比較



※平成25年度「全国学力・学習状況調査」(文部科学省)

図表2 学年別



問3. あなたは、1か月の間に、本を何冊ぐらい読みますか。  
(教科書、学習参考書、マンガ、雑誌や付録をのぞく)

● 「1～2冊」は小学生は3割強で、中学生は5割強

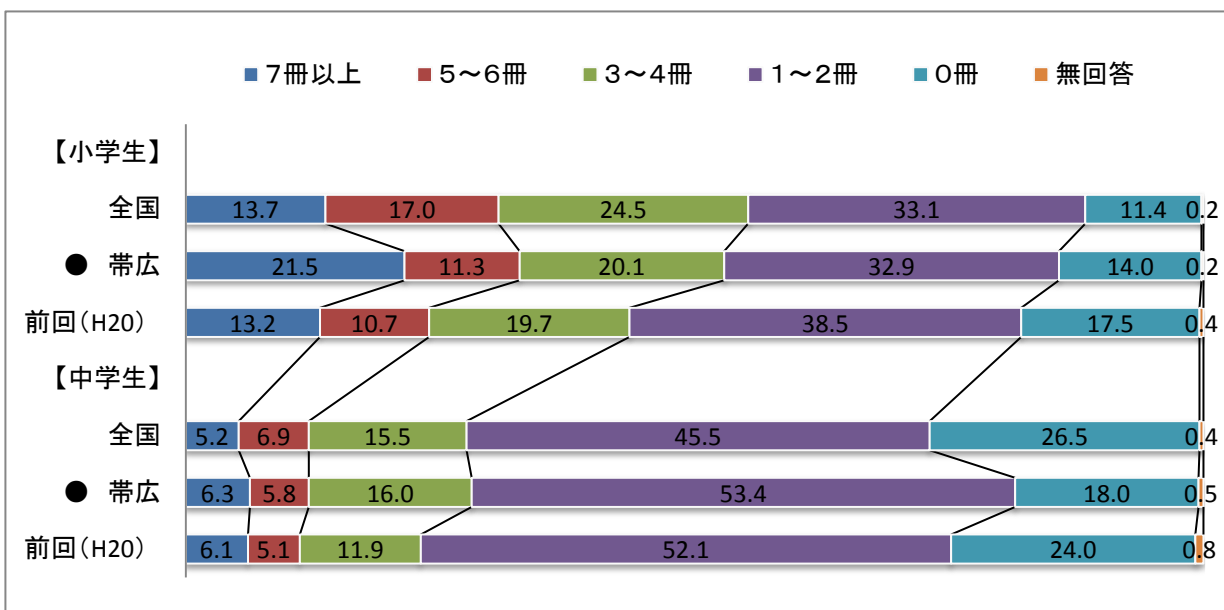
【小学生】

1ヶ月間に本を「1～2冊」(32.9%)読む割合が最も多く、次いで「7冊以上」(21.5%)となっている。7冊以上読んでいる割合が前回(13.2%)より増加し、全国の値(13.7%)より7.8ポイント高くなっている。

【中学生】

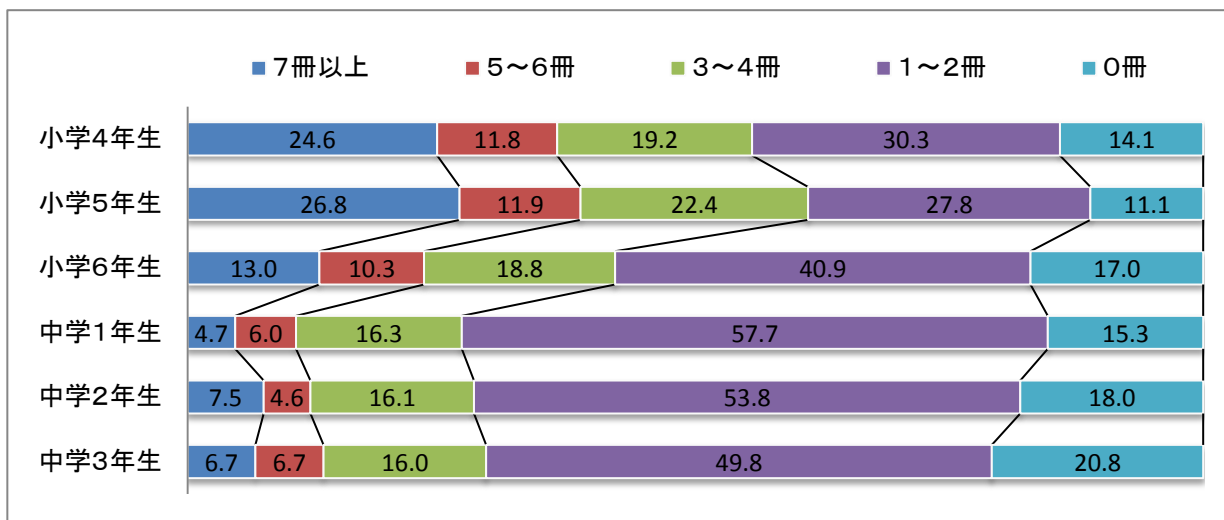
「1～2冊」(53.4%)が最も多い。「0冊」(18.0%)の割合は、全国、前回同様2番めに多いが、全国(26.5%)に比べ8.5ポイント低く、前回(24.0%)に比べても6ポイント低くなっている。

図表3 全国※・前回(平成20年度)との比較



※平成25年度「全国学力・学習状況調査」(文部科学省)

図表3 学年別



「0冊」と答えた人だけ、あてはまるものに回答してください。

問3-1. 読みたかったが読めなかった。その理由を、あてはまるもの3つまで選んでください。

● 小学生、中学生共に、「読みたい本がない」と「塾や部活など他の事で時間がない」が約3割

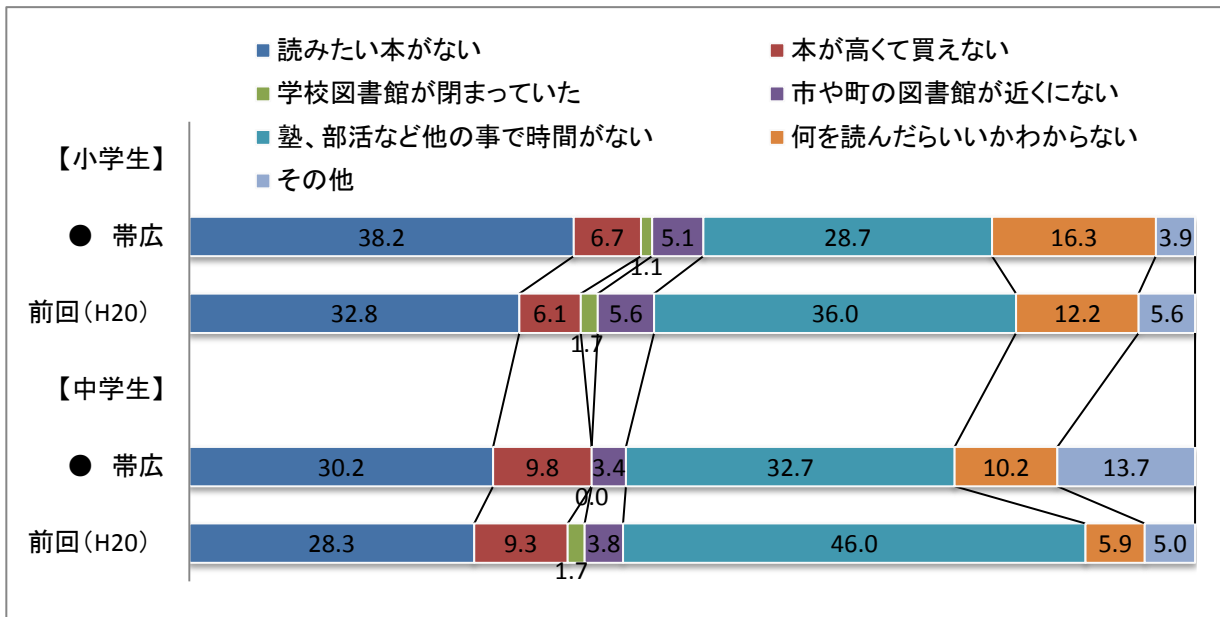
【小学生】

「読みたい本がない」(38.2%)が最も多く、前回(32.8%)より、5.4ポイント高くなっている。  
 「塾、部活など他の事で時間がない」(28.7%)が、2番目に多く、前回(36.0%)より、7.3ポイント低くなっている。

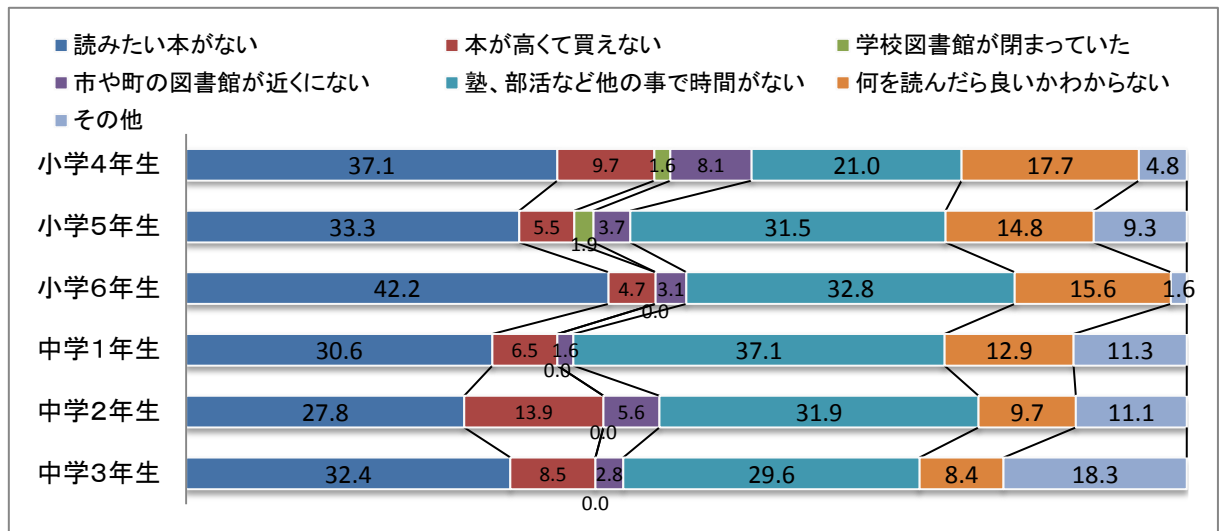
【中学生】

「塾、部活など他の事で時間がない」(32.7%)が最も多く、前回(46.0%)より13.3ポイント低くなっている。

図表3-1 前回(平成20年度)との比較



図表3-1 学年別



「0冊」と答えた人だけ、あてはまるものに回答してください。

問3-2. 読みたいと思わなかった理由を、あてはまるもの3つまで選んでください。

- 小学生、中学生共に、「本を読むのが嫌い」と「本より、マンガやテレビの方がおもしろい」が約2割以上

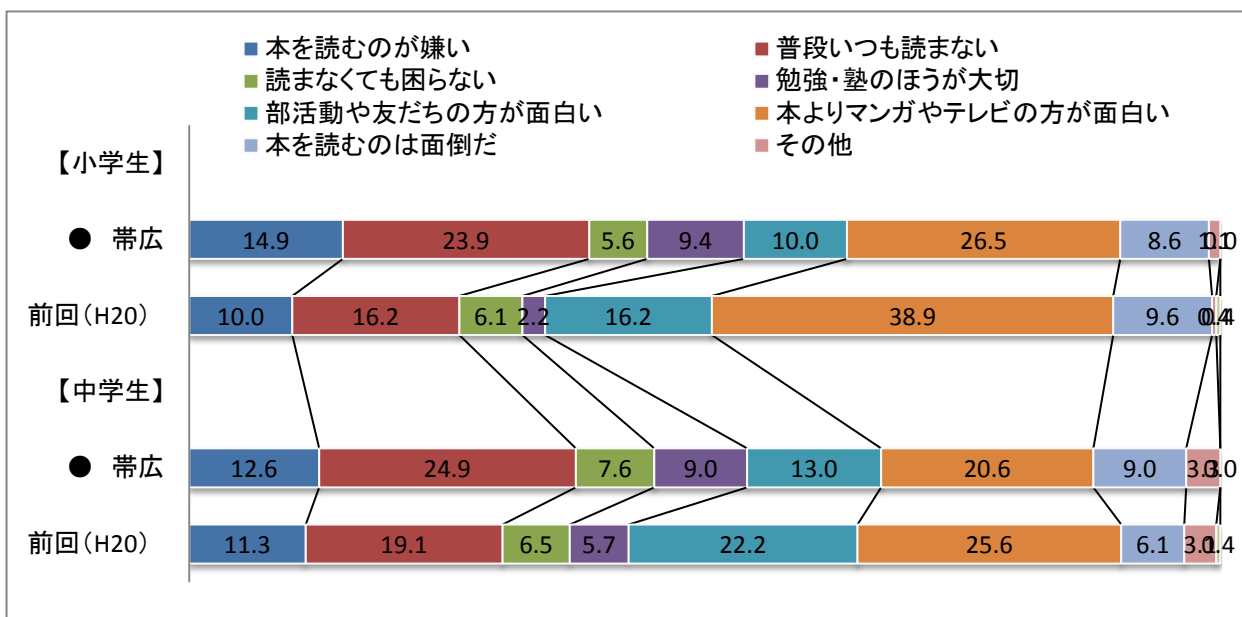
【小学生】

「本よりマンガやテレビの方がおもしろい」(26.5%)がもっとも多いが、前回(38.9%)より、12.4ポイント低い。  
 「ふだんいつも読まない」(23.9%)が、前回より7.7ポイント高くなった。

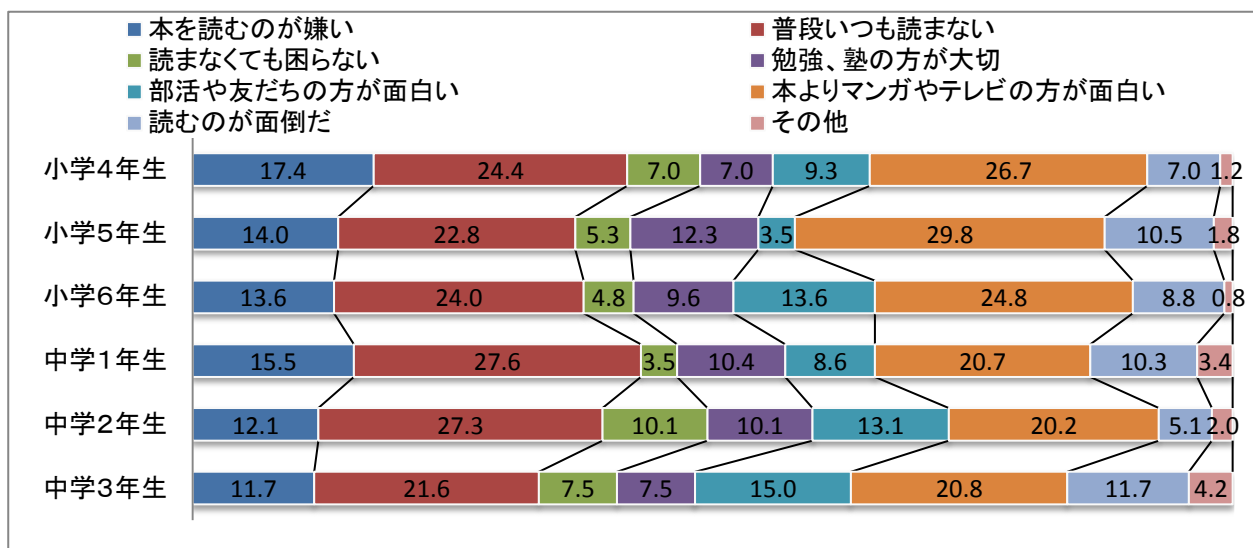
【中学生】

「ふだんいつも読まない」(24.9%)が、前回より5.8ポイント高くなっており、前回(19.1%)は3番めに多かったが、今回は最も高くなっている。

図表3-2 前回(平成20年度)との比較



図表3-2 学年別



問4 1か月の間に、雑誌、マンガ雑誌、マンガを何冊読みますか。

● 小学生は「7冊以上」、中学生は「1～2冊」が最多

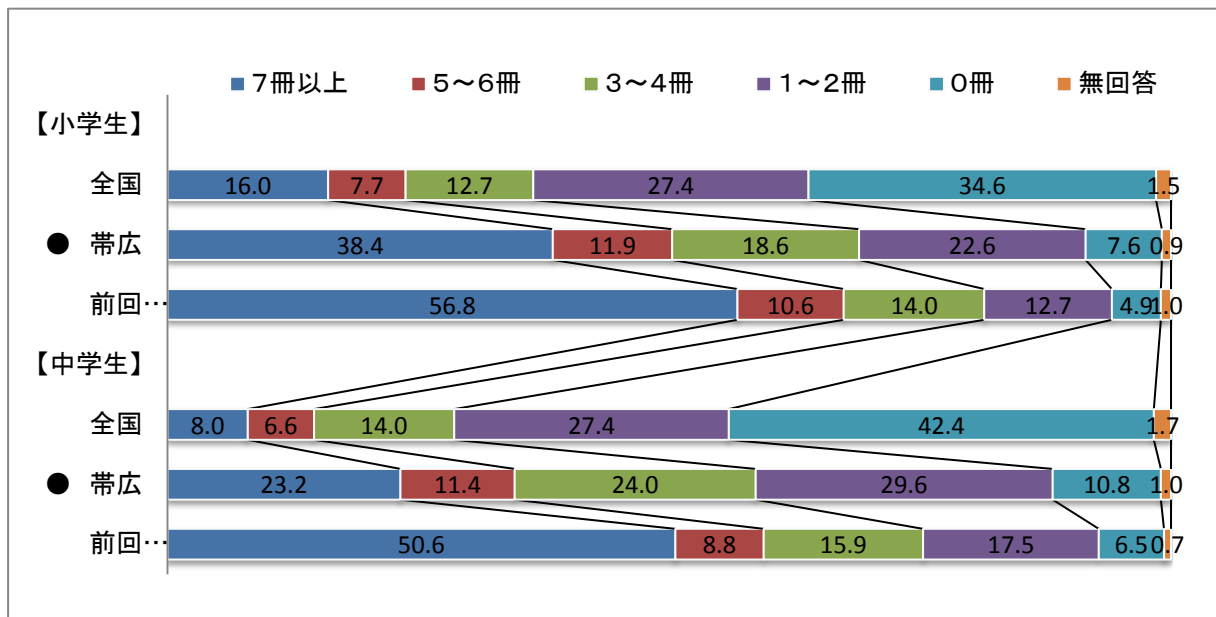
【小学生】

「7冊以上」(38.4%)が最も多いが、前回(56.8%)より18.4ポイント低く、全国(16.0%)より、22.4ポイント高い。  
次いで、「1～2冊」(22.6%)が多い。

【中学生】

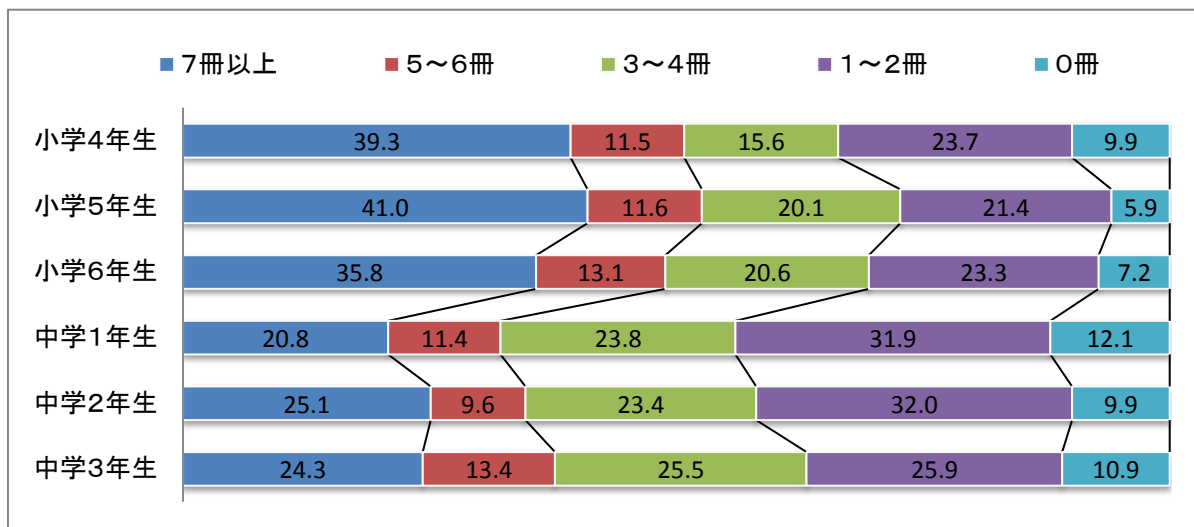
前は、「7冊以上」(50.6%)が最も多かったが、今回は、「1～2冊」(29.6%)が最も多い。  
全国は、「0冊」(42.4%)が、最も多い。

図表4 全国※・前回(平成20年度)との比較



※2013年版「読書世論調査」(毎日新聞社)

図表4 学年別



「読書に関する行動」

問5-1 本屋さんにどれくらい行きますか。

● 「よく行く」「ときどき行く」をあわせた“行く”が、小学校、中学校ともに7割強

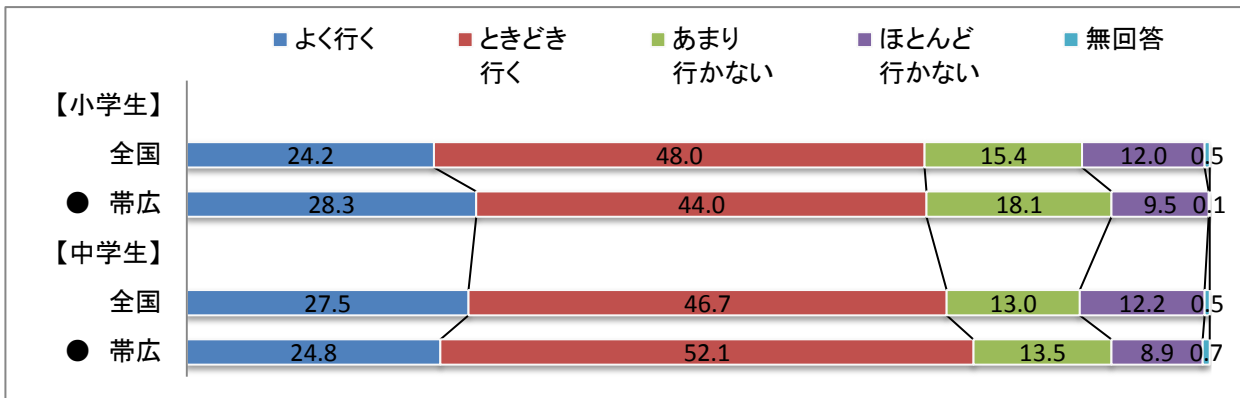
【小学生】

「ときどき行く」(44.0%)が最も多い。  
「よく行く」(28.3%)は、全国(24.2%)より、  
4.1ポイント高い。

【中学生】

「ときどき行く」(52.1%)が最も多い。  
「よく行く」(24.8%)は、全国(27.5%)より、  
2.7ポイント低い。

図表5-1 全国※との比較



※2013年版「読書世論調査」(毎日新聞社)

問5-2 学校の図書館をどのくらい利用しますか。

● 小学生は「よく行く」「ときどき行く」をあわせた“行く”が6割強だが、中学生は「あまり行かない」「ほとんど行かない」をあわせた“行かない”が7割弱

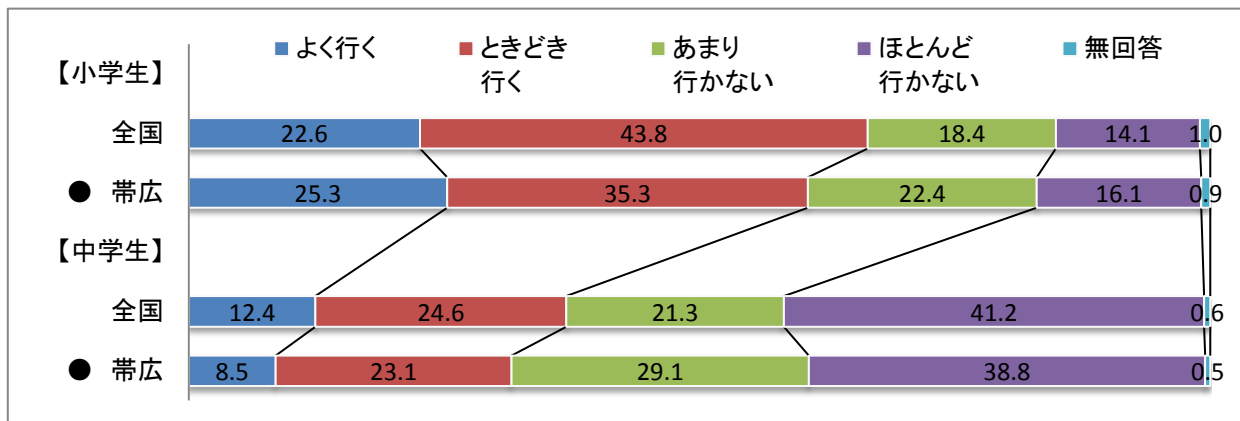
【小学生】

最も多い「ときどき行く」(35.3%)と、次いで多い「よく行く」(25.3%)をあわせた“行く”は60.6%となっている。

【中学生】

最も多い「ほとんど行かない」(38.8%)と、次いで多い「あまり行かない」(29.1%)をあわせた“行かない”は67.9%となっている。

図表5-2 全国※との比較



※2013年版「読書世論調査」(毎日新聞社)

「読書に関する行動」

問5-3 市の図書館をどのくらい利用しますか。

● 「あまり行かない」「ほとんど行かない」をあわせた“行かない”が、小学生は6割強、中学生が8割弱

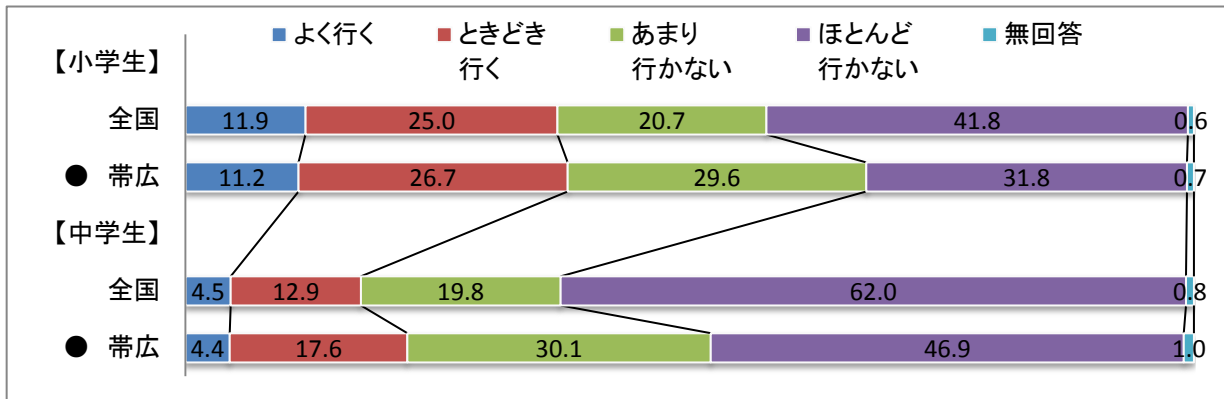
【小学生】

最も多い「ほとんど行かない」(31.8%)と、次いで多い「あまり行かない」(29.6%)をあわせた“行かない”は61.4%となっている。

【中学生】

最も多い「ほとんど行かない」(46.9%)と、次いで多い「あまり行かない」(30.1%)をあわせた“行かない”は77.0%となっている。

図表5-3 全国※との比較



※2013年版「読書世論調査」(毎日新聞社)

問5-4 自分で本を買いますか。(教科書、参考書、マンガ、雑誌を除く)。

● 小学生は、「ほとんど買わない」が3割だが、中学生は「ときどき買う」が4割

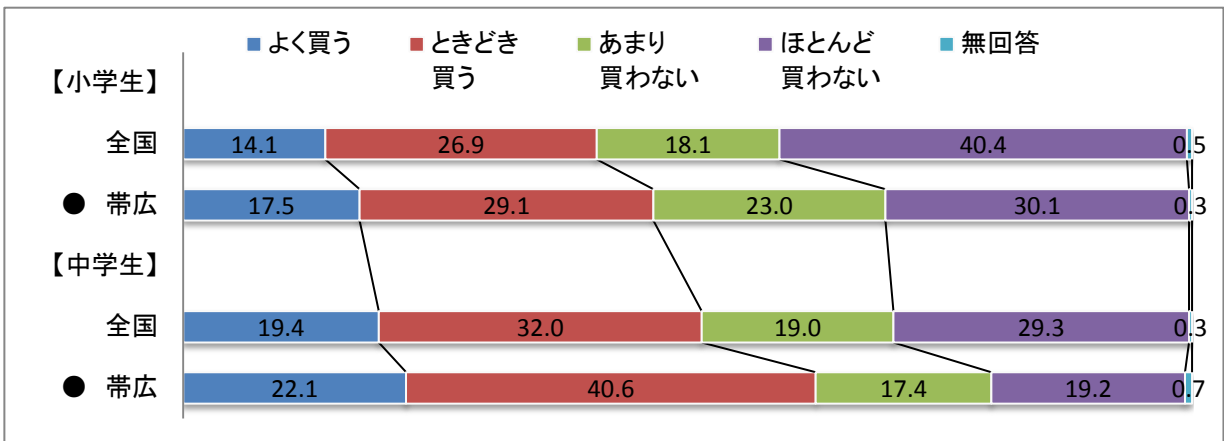
【小学生】

「ほとんど買わない」(30.1%)と「ときどき買う」(29.1%)がほぼ同じとなっている。

【中学生】

「ときどき買う」(40.6%)が最も多く、全国(32.0%)より、8.6ポイント高い。

図表5-4 全国※との比較



※2013年版「読書世論調査」(毎日新聞社)

「読書に関する行動」

問5-5 友だちと本の貸し借りをしますか。

● 「ほとんどしない」が小学生、中学生ともに4割超

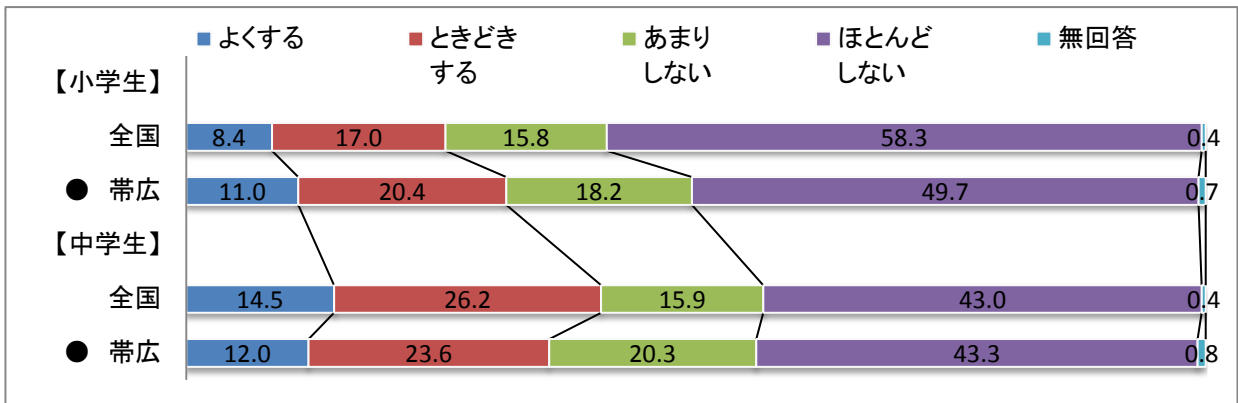
【小学生】

「ほとんどしない」(49.7%)が最も多く、次いで「ときどきする」(20.4%)となっている。

【中学生】

「ほとんどしない」(43.3%)が最も多く、次いで「ときどきする」(23.6%)となっている。

図表5-5 全国※との比較



※2013年版「読書世論調査」(毎日新聞社)

問5-6 テレビや映画で話題になった本を読みますか。

● 「よく読む」と「ときどき読む」をあわせた“読む”は小学生、中学生ともに約6割

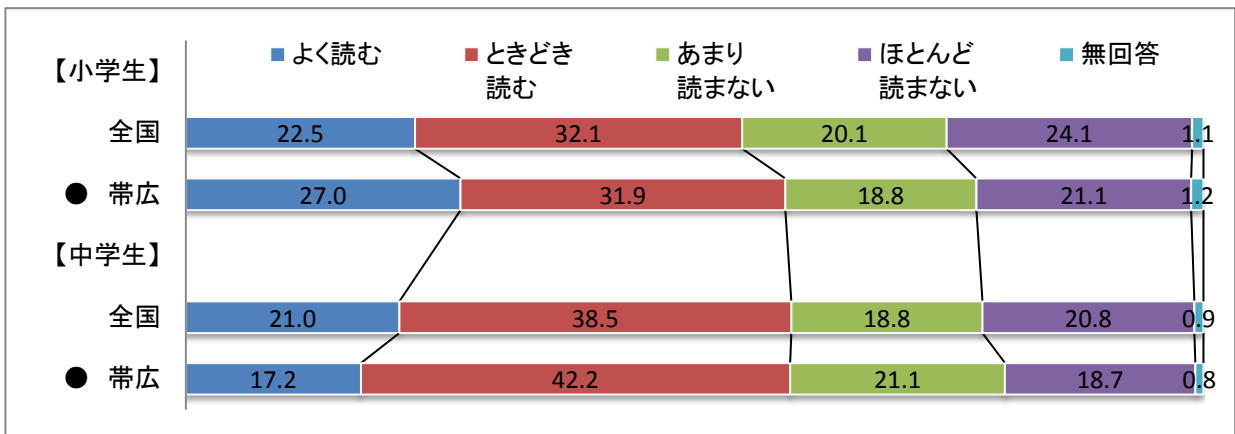
【小学生】

「ときどき読む」(31.9%)で最も多く、次いで「よく読む」(27.0%)となっている。

【中学生】

「ときどき読む」(42.2%)が最も多く、次いで「ほとんど読まない」(21.1%)となっている。

図表5-6 全国※との比較



※2013年版「読書世論調査」(毎日新聞社)



「読書後の行動」 この1年間で本を読んで次のような行動をしたことがありますか

問6-1 その本の続編やシリーズの本を読んだ。

- 「はい」が、小学生、中学生ともに7割強

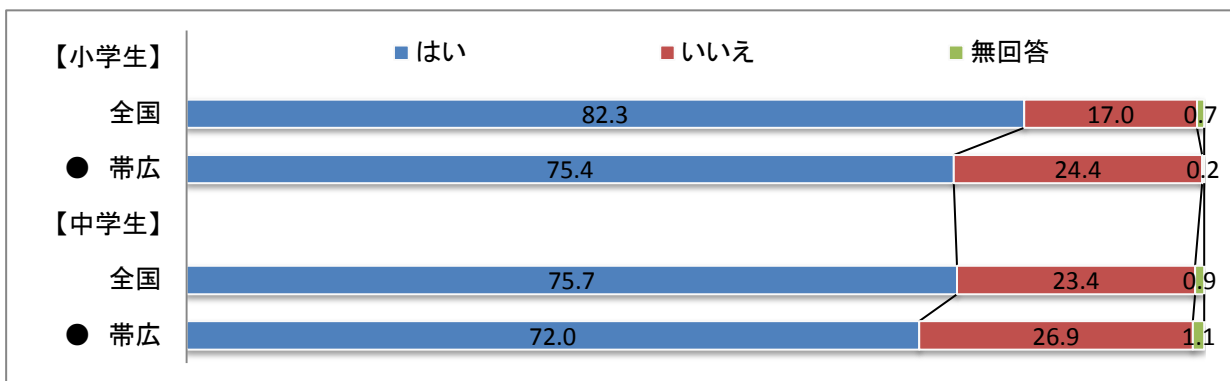
【小学生】

「はい」が75.4%、一方、「いいえ」が24.4%となっている。

【中学生】

「はい」が72.0%、一方、「いいえ」が26.9%となっている。

図表6-1 全国※との比較



※2013年版「読書世論調査」(毎日新聞社)

問6-2 同じ作者の本を読んだ。

- 「はい」が、小学生が7割強、中学生が6割強

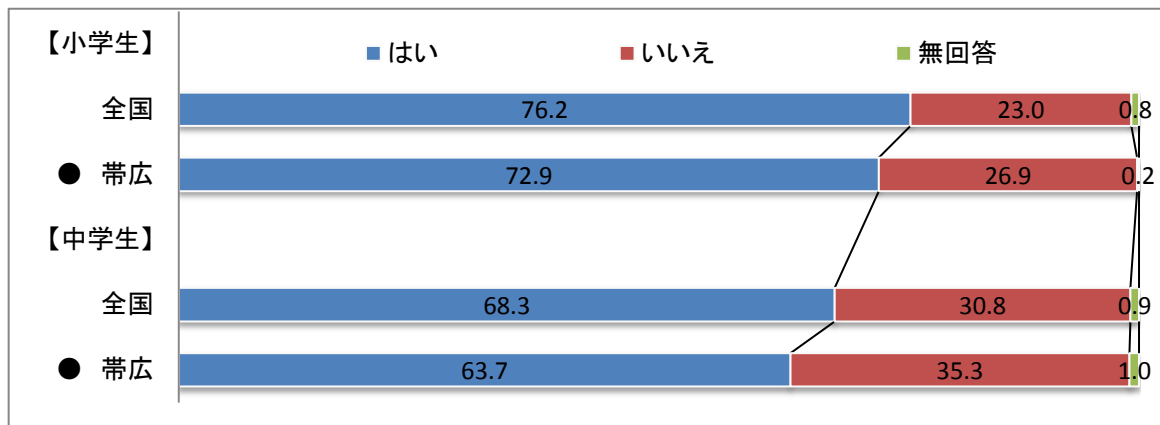
【小学生】

「はい」が72.9%、一方、「いいえ」が26.9%となっている。

【中学生】

「はい」が63.7%、一方、「いいえ」が35.3%となっている。

図表6-2 全国※との比較



※2013年版「読書世論調査」(毎日新聞社)

「読書後の行動」 この1年間で本を読んで次のような行動をしたことがありますか

問6-3 同じ種類の本を読んだ。

- 「はい」が、小学生が8割強、中学生が7割強

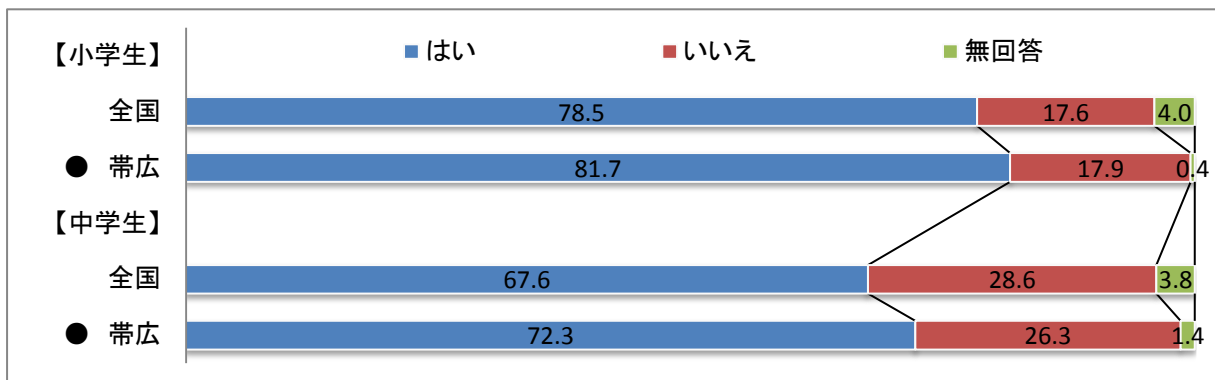
【小学生】

「はい」が81.7%、一方、「いいえ」が17.9%となっている。

【中学生】

「はい」が72.3%、一方、「いいえ」が26.3%となっている。

図表6-3 全国\*との比較



※2013年版「読書世論調査」(毎日新聞社)

問6-4 読書の記録として、本の名前や作者の名前を書いた。

- 「いいえ」が、小学生が7割強、中学生が9割弱

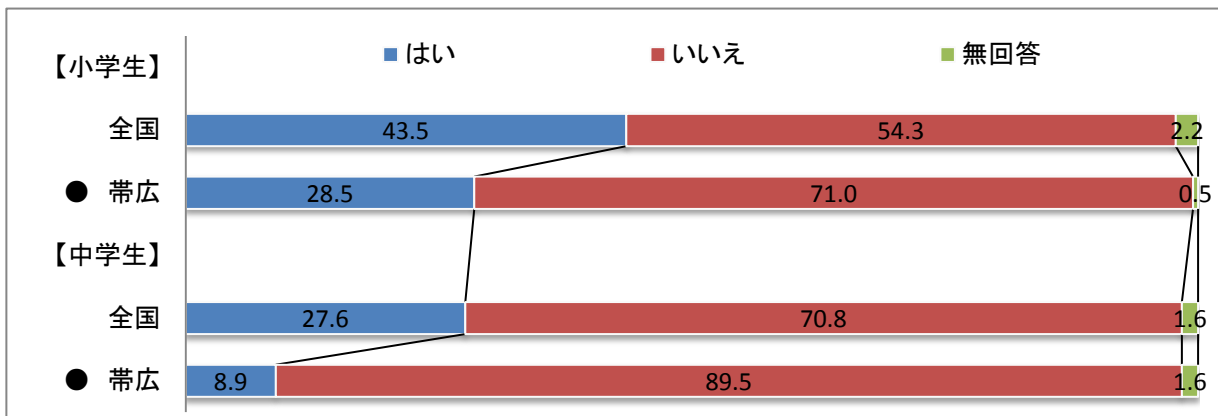
【小学生】

「いいえ」が71.0%、一方、「はい」が28.5%となっている。

【中学生】

「いいえ」が89.5%、一方、「はい」が8.9%となっている。

図表6-4 全国\*との比較



※2013年版「読書世論調査」(毎日新聞社)

「読書後の行動」 この1年間で本を読んで次のような行動をしたことがありますか

問6-5 その本について感想文や絵をかいた。

- 「いいえ」が小学生が6割強、中学生が8割強

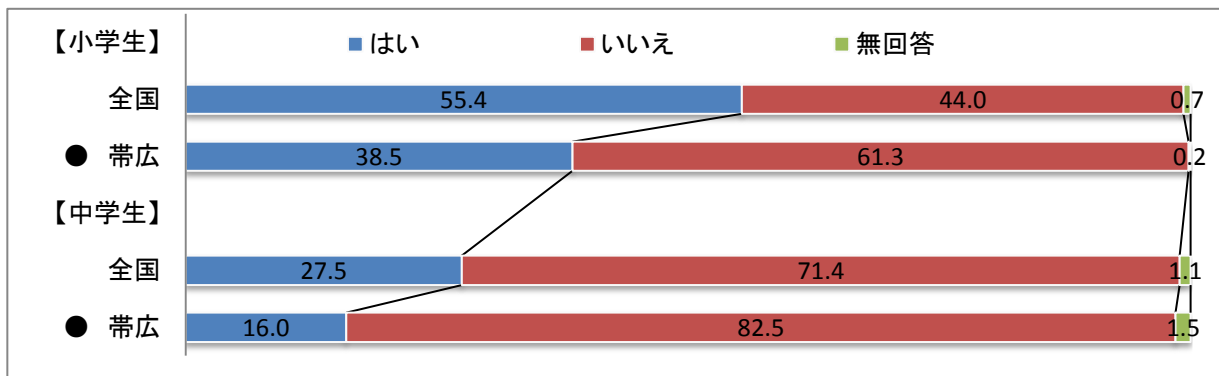
【小学生】

「いいえ」が61.3%。  
一方、「はい」が38.5%となっており、全国と比べると16.9ポイント少ない。

【中学生】

「いいえ」が82.5%。  
一方、「はい」が16.0%で、全国から比べると11.5ポイント少なくなっている。

図表6-5 全国※との比較



※2013年版「読書世論調査」(毎日新聞社)

問6-6 友だちや家の人と本について話し合った。

- 「いいえ」が、小学生が6割強、中学生が7割弱

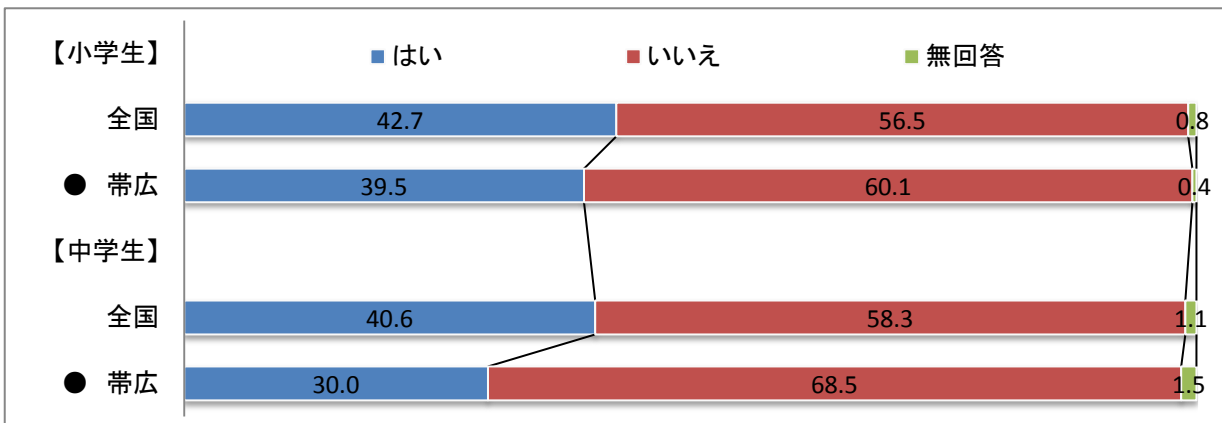
【小学生】

「いいえ」が60.1%。  
一方、「はい」が39.5%となっており、全国から比べると3.2ポイント少ない。

【中学生】

「いいえ」が68.5%。  
一方、「はい」が30.0%となっており、全国から比べると10.6ポイント少ない。

図表6-6 全国※との比較



※2013年版「読書世論調査」(毎日新聞社)

「読書後の行動」 この1年間で本を読んで次のような行動をしたことがありますか

問6-7 読みたくなった本を、図書館や本屋に探しにいった。

- 「はい」が小学生が7割台半ば、中学生が6割台半ば

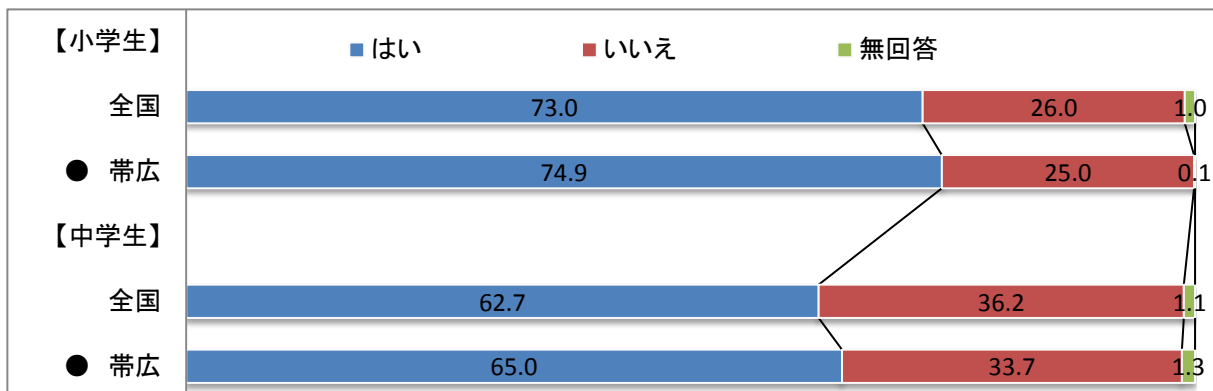
【小学生】

「はい」が74.9%で、全国と比べると1.9ポイント高い。  
一方、「いいえ」が25.0%となっている。

【中学生】

「はい」が65.0%で、全国と比べると2.3ポイント高い。  
一方、「いいえ」が33.7%となっている。

図表6-7 全国\*との比較



※2013年版「読書世論調査」(毎日新聞社)

問7 帯広市図書館についてお聞きします。  
あなたは、この1年間に帯広市図書館をどのように利用しましたか。

- 小学生は、「本やDVDを借りる」が4割弱、中学生は「利用したことがない」3割で最多

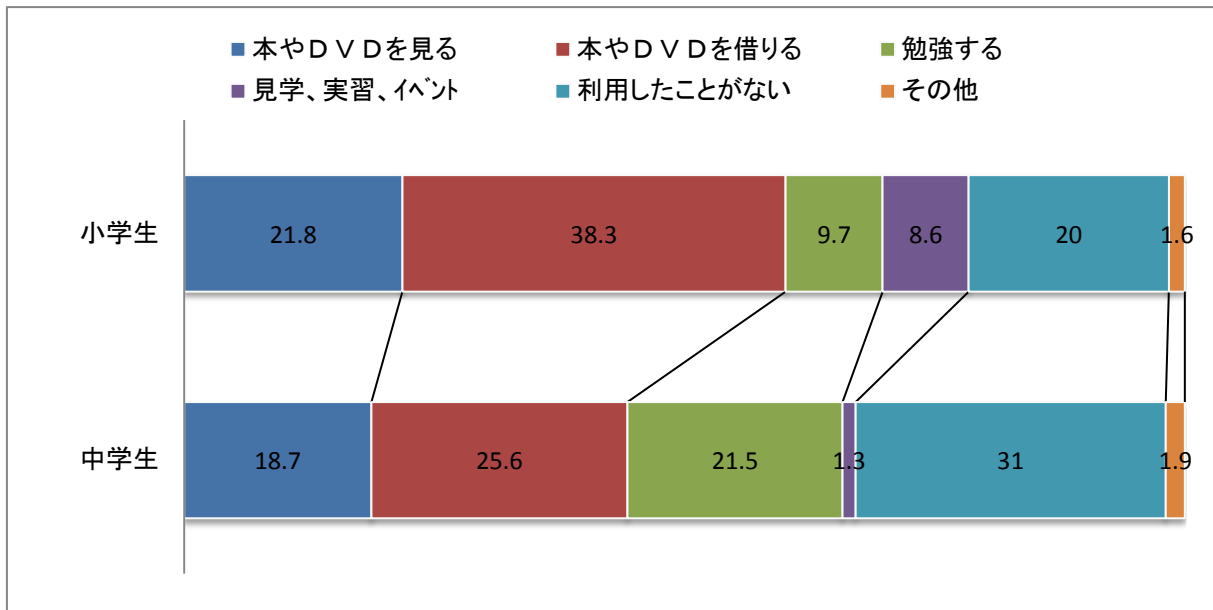
【小学生】

「本やDVDを借りる」(38.3%)が最も多く、次いで、「本やDVDをみる」(21.8%)、「利用したことがない」(20.0%)、「勉強する」(9.7%)、「見学、実習、イベント」(8.6%)の順となっている。

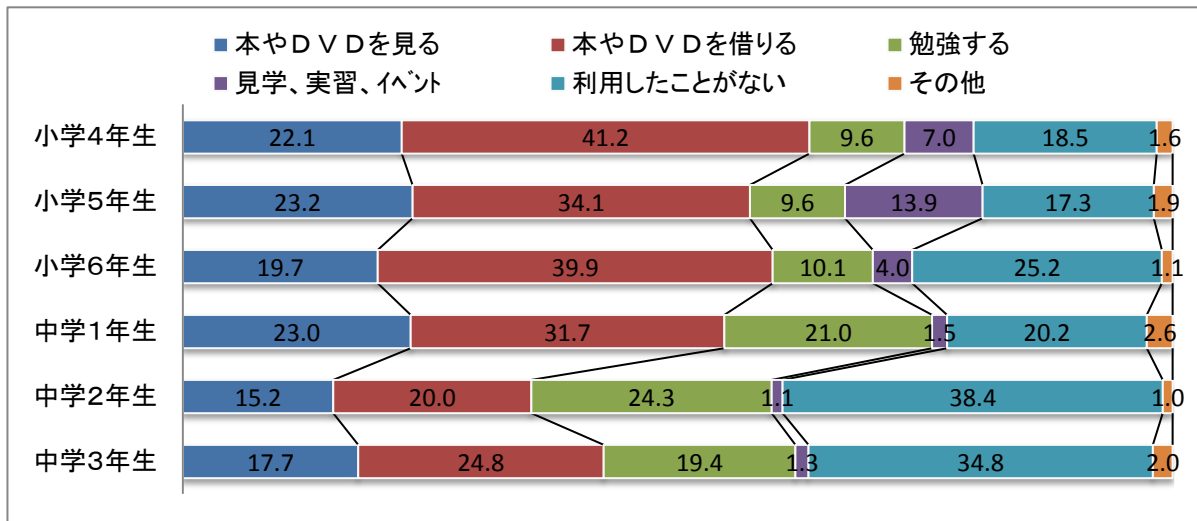
【中学生】

「利用したことがない」(31.0%)が最も多く、次いで、「本やDVDを借りる」(25.6%)、「勉強する」(21.5%)、「本やDVDを見る」(18.7%)、「見学、実習、イベント」(1.3%)の順となっている。

図表7



図表7 学年別



## 第三期帯広市子どもの読書活動推進計画

平成27年1月30日 帯広市教育委員会決定

発行 平成27年3月3日

編集 帯広市教育委員会生涯学習部図書館

〒080-0012 帯広市西2条南14丁目3番地

TEL: 0155-22-4700 fax: 0155-22-4701

E-mail: library@city.obihiro.hokkaido.jp